

教育者の迂遠

某實業家の話に教員ほど潰し値の利かないものは無い、保險會社の勧誘員にでもと思つて使つて見たがそれも勤まらぬと。

實際教員ほど迂遠なものはない。極まりきつた事を極まりきつた通りにやつて居ればそれで何事でも出来ると思つて居る。子供ならばそれで濟ませて呉れるかも知れぬが社會の人はなか／＼許して呉れない。これは或る學校で見た話だが何時でも左を通行しなければならぬ、左側を通行しなければならぬと頻りに説き聞かして居た。ところが可笑しいには、學校の前を通つてゐる軌道は左側を通つてゐる。若しも子供が先生の教を守つてどんな場合でも左側を通行したとしたならば其の學校の生徒は皆死んでしまはなければならぬ。愚かなとではないか。又或る處では電

車や汽車などに乗る時には先を争つてはいけな、さうして成丈真中に乗るやうにしなければならぬと教へて居た。斯んな事を眞に受けて其の通りを實行したら何時も乗後れて非常な馬鹿を見なければならぬ。汽車は兎も角として、今日の様に鮪詰のやうに込んで居る電車に乗つて真中にでも居ようものなら何時も降り損なつて飛んでもない目に遭はなければならぬ。

左側通行も結構であるが、それは車道が真中を通つて總ての人が左側を通行し得る様になつて居る處にして初めて望むことが出来る。電車や汽車ももう少し整頓されて先を争つたり降りるのを急がなかつたりする様になつた曉に望まれることである。今日の社會ではまだ／＼そんな教訓は間に合はない。

斯う云ふ迂遠な融通の付かない教師に教へられる兒童は何時も二重の苦しみを嘗めなければならぬ。重盛のやうに、忠ならんと欲せば孝ならず

孝ならんと欲せば忠ならずと言つた様な矛盾した境遇を切抜けるだけの力が兒童にあれば結構であるが、それは到底兒童には望まれない事である。かの方言と標準語の問題の如き、教師は唯真正面から標準語の普及といふ事だけを考へて、方言がどれだけの力を有つて居るものであるか、方言を標準語に化した爲めにどれだけの矛盾が起るか、と云ふやうなことを些とも考へてゐない。そんな穢い言葉を使つてはいけません、餘所の人から笑はれますと云ふやうなことを真向から頻りに浴せかけて方言を使用させまいとする。併し兒童が家に歸つて見ると家の人は皆方言を使つて居る。學校では先生が方言の野卑であること、使つてはならないことを説いて聞かせる。家に歸つて見るとお父さんもお母さんもお祖父さんもお祖母さんも皆使つて居る。此の間に立つて子供がどんな矛盾と煩悶に苦しんで居るか、と云ふことを些とも考へて居ないらしい。

學校で教へられたり、させられたりする事が家庭でさせられて居る事と

矛盾して居る場合が屢々ある。そんな事には頓着なく、やつぱり極まりきつた事を真面目臭つて説いて居る。どうした迂遠なことだらう。

子供といつて決して輕蔑は出来ないものである。私はほんの此の間或る學校で自由學藝會と云ふものを見た。子供が自由に話をしたり唱歌を歌つたりする學藝會である。その學藝會で子供が思ひ／＼に自分の話さうと思ふとを塗板に書出してゐた。すると驚いた。五年や六年の生徒の書出したものを見るとなか／＼私共の考へてゐる事以上の大きい時事問題を擔ぎ出して居る。ウイルソンの十八箇條とか獨逸の負けた原因とか、巴里の講和會議とかいふ様な大きな問題を出して居た。どんな事を話すかと思つて興味を有つて聽いて居ると、其の話が亦なか／＼振つたものである。實際のところ私自身がウイルソンの十八箇條の内容を明瞭にして居なかつた。兒童の話すのを聽いて學んだ所が尠くなかつた。斯んな時代の子供に稻生恒軒の妻がどうの斯うのと、そんな事を説いて聽かせて何

の效があらう。極まり切つた事を鹿爪らしく、説いて聽かせて、それで満足な教育が出来ると思つたら大間違である。そんな血も力も無い仕事を繰返して何にならう。教育者の迂遠にも呆れてしまふ。

或る友人が東京に行つて歸つてからの土産話の一節に東京で或る縣立女學校の女學生が團體で修學旅行に來て居るのに出會つた。其の引率教官の中には私の友人も混じつて居たさうである。私の友人は學校を卒業してからまだ二三年にしかならない若い教師であるが、田舎の方に這入つてから著しく田舎臭くなつて居たさうである。友人は其の噂をして、田舎に這入ればあゝも田舎臭くなるものか、俺もあんなになるかと思ふと泣出したくなつて來たと言つて居た。あれだから世の中の人から學校の先生は迂遠だ時代後れだといふ批評を受けるのだ。もう少し活氣がなくてはならぬ。生々として居なくてはならぬ。きりくいと引締まつて居なければならぬと、斯様なことも言つて居た。本當に其の通りである。

活氣のある教育は活氣のある教師に望まれる。生々とした引締まつた教育は生々として引締まつた教師にして初めて望むことが出来る。私共はもう少し活きた今日の世の中を理解しなければならぬ。

教師の頭が硬化して居る

或る學校の校長が兒童の理科實驗に對して斯んな杞憂を抱いて居たさうだ。此の頃は兒童の理科實驗といふことが非常に獎勵されて居る様だが、子供に硫酸や硝酸などの劇薬を扱はせると云ふとは危険ではあるまいか、私は何だか怖ろしくてならないと云ふ様な事を眞面目に云つてゐたさうである。斯う云ふ頭腦の硬化した先生は外にも尠くない。

これは實際に私の見た話であるが、或る學校で綴方の研究授業が開かれた。それは尋常五年に人物描寫をやらせるのであつた。さうして題目は

教師の頭が硬化して居る

校長さんと云ふ題目であつた。子供の記述が一通り済んでから二三の児童に綴つたものを讀ませて、教師と児童とが一緒になつてそれに對する批評を加へて居た。大層面白い教授であつた。教授が終つてから型の様に批評會が開かれた。その批評會で或る一人の教師は、人物描寫は誠に非教育的である、あんな仕事を小學校の児童に課するのは誠に怪しからぬと頻りに憤慨して居た。それは子供の綴方が校長の癖や校長の風采の可笑しい所や校長の素振や皮肉な綽名などを無遠慮に書いてゐたからである。此の批評には賛成者が非常に多くて、此の會ではとう／＼、人物描寫は非教育的なものになつてしまつた。

人物描寫は本當に非教育的のものであらうか。子供が校長の悪口を書くからそんなものは書かせない方が宜いと云ふのであらうか。私はどうも解釋が出来ない。校長先生といふ文題を課せられて其れに向つて筆を執つた児童がそんな悪い方面ばかりを書くといふことは一體誰の罪であ

らうか。斯う云ふ硬化した頭腦では綴方の貴い所は迎も理解が出来まい。

又或る學校では斯んな事を云つて居た。私の學校には果樹を栽えないことにして居る、果樹を栽えると児童に盜心を起させる憂がある、だから絶對に果樹を栽えないことにして居ると。一寸聞くと尤もの様だが是れも私には合點が行かない。果樹を栽えたと子供が盜心を起すと云ふのが本當であらうか、盜心が有るから果物を盜むと云ふのが本當であらうか。おいしさうな美しい果物が生つてゐるのを見ても手も出さない様な子供を拵へると云ふのが本當であらうか。盜むから栽えないと云ふのが本當であらうか。私には何うしても其れが分らない。

大阪の男教師が女教師を殺したと云ふ問題が擡がつてから、校長が男教師と女教師の日直の交替時間に心配して色々面倒な規則を拵へたと云ふことが新聞に載せられて居たが、是れとて私には其の校長の眞意が酌めない。男教師と女教師とが物を言ふのが悪いとしたら男教師の居る學校に

は女教師を置かない方が宜いではないか。又物を言はない様にしたからと云つて果してさう云ふ間違を未然に防ぐことが出来るであらうか。唯引離して置きさへすれば間違が起らないと思ふのは愚かな考である。

斯う云ふ校長や教師は所謂多年の經驗を楯に取つて萬事が事勿れ主義で押通さうとする。偶々新しい思想上の話でも聞くと目を圓くして直ぐに危険思想だと云ふ。斯う云ふ教師は世の中がどう變つてどんなに進歩して居るかを知らない。さうして唯僅少な、淺薄な、古い、微の生えた思想で萬事が解釋されるものと考へて居る。斯んな先生に労働問題やデモクラシーの話でも聞かせるのとそれこそ大騒ぎである。斯んな頭腦の硬化した先生の説く倫理は何時も孔孟の教で、孔子が何う云ふたの孟子が何う云ふたのと、三千年も昔の思想で今日の活きた新しい世の中を解釋しようとする。堪まつたものではない。

世の中は進んで居る。人知は發達して居る。思想上の進歩は目に見え

ないから實例を示して納得させることが出来ないかも知れぬが、物質文明の進歩のみに就いて觀ても明かである。孔子や孟子が夢想だもしなかつた飛行機はどうだ。無線電信はどうだ。X光線はどうだ。タンクが走り。潜航艇が浮ぶ。なか／＼愚圖々々して居る譯には行かない。此の間分捕つた獨逸の潜航艇あの潜航艇には電燈が晝も夜もついた切りで消すことが出来ないさうだ。どうして消してよいかそれが分らないさうだ。又あの潜航艇は浮べることが出来るが潜航させることが出来ない。どうして潜航させて居たかそれが中々分らないさうである。斯んな事ではまだまだ我國の文明も怪しいものである。

思想上になると其れよりも更に甚だしい。労働問題などに就いても政府は初めは危険視して居たが今では大使の人選に腐心して居るではないか。八時間制が早い何うのと言つて居る間にも、う、どし／＼實行して居るではないか。社會主義なども角袖が附いて廻るやうだつたが今では大

學に講座が出来てゐるではないか。

硬化した頭腦の教師は祖先を尊ぶ事のみを知つて子供を尊ぶことを知らない。子供は進歩するものである。私共以上に進歩するものである。これはダーキンの進化論などから云つても明かな事實である。私共が未開の野蠻時代から漸次に進化した事實を以て考へて見ても私共よりも更に私共の次に來る人間の方が偉くなると云ふことは證明が出来るではないか。斯様に進歩する否な進歩しつゝある兒童を、ちつとも進歩しない硬化した頭腦の先生が何うして教へることが出来るか。進歩せる頭腦を持つた人でなければ進歩する子供の教育は出来ない。硬化した先生の進歩しない多年の經驗が何が貴い。僅か師範學校で學んだ貧弱な知識を社交といふ小才でやつと働かせ、どうか斯うか間に合せて居る様な教師に依つて何うして活きた教育が望まれよう。改造！改造！改造は我が學校の焦眉の急である。

能率問題

能率問題は各方面から齊しく唱へられる問題であるが、能率其のものゝ意義は割合にぼんやりして居る。能率を高めるには餘程の自制と訓練とを要する。

能率を高めるとは唯仕事を澤山すると云ふ意味ではない。少い時間で多くの仕事をすると云ふことである。例へば茲に二人の教師があるとして其の一人は四時迄も五時迄も學校に居残つて事務を執つて居る。他の一人は學校が濟んだらさつさと切上げて歸つてしまふ。此の二人の教師に就いて若しも其の仕事の結果の上に大した相違が無いものとしたら、長く居残つてゐる教師よりもさつさと切上げて歸る教師の方が優良な教師と認めなければならぬ。長く學校に居残つて居るのが能率の高いのではな

い。能率の高い者は早く済ませてすん、歸るがよい。

或る學校では退け後二時間は屹度學校に留まつて居なければならぬと云ふ規定がある。或る學校では必ず五時までには學校に居なければならぬ事になつて居る。これなどは多くの教師を同一に視てゐるので、能率の高い人も能率の低い人も同じ様に取り扱つてゐるからである。能率の高い人は誠に迷惑な話である。

一體今日の學校では子供の方へは個性を認めなければならぬと云つて居るが、教師の方には其を些とも認めて居ない。間違つた話だ。不合理な話だ。教案を作らないでも宜い教師には教案を作らせる必要は無い。役にも立たない形式に囚はれて無用の時間を空費させるのは馬鹿らしいとだ。帳簿類や統計表なども不必要なものが尠くない。そんなものは悉く省いてしまふがよい。學校の事務なども出来るだけ簡略にして手間の取れないやうに工夫するが宜い。

教員も人である。人の遊ぶ時には遊ぶがよい。何も教員だから遊ばずに働かなければならぬと云ふ筈は無い。労働者仲間ですへ八時間制の喧しい時代ではないか。成可く公務を簡單にして餘裕を拵へて人らしい生活の出来る様にするがよい。働く時にはしつかり働いて、切上げる時にはさつさと切上げるが宜い。さうして出来るだけ餘裕を拵へて自己の修養に力めるが宜い。本の讀みたい人は本を讀まうし、何か研究したいと思ふ人は研究するが宜い。これが矢張り教師の能率を高める所以である。

すべて煮え切らない生活が一番悪い校長が歸らないから歸る譯に行かぬ。仕事は無いが時間が來ないから歸られぬ。まあ風琴でも弾いて、時間の來るのを待たうと云ふのが今日の實狀である。中に用事を持つて氣のいら、いして居る人は校長の顔が馬の顔の様に長く見える。もう歸りさうなもの、まだ歸らぬかと、氣が氣でない。斯んな煮え切らない態度で何うして活きた教育が出來よう。

私の知つてゐる或る教員の話には私は学校の仕事が忙しいので、朝は早く家を出て夜は大概電燈がついてからでなければ歸つて來ない。だから子供と一緒に食事をしたことが無い、大概は子供の起きない内に食事を済ませて家を出なければならぬ。さうして歸つた時にはいつも子供は寝てしまつて居る。斯んな有様だから子供は碌々に私の顔を見たことが無いと云ふやうな話をして居た。實際に今日の學校は斯んなに多忙であらうか。私はもう少し考へなければならぬと思ふ。

子供は學校へ何時に來る。さうして何時に歸る。考へて見給へ。子供が學校へ來る前に一時間も早く出て來る必要が何處にある。子供が歸つてから二時間も三時間も居残る必要が何處にあるか。斯んなに要らない仕事を脊負はせるから能率は段々減じて來て神經衰弱が多くなる。教員はどんな顔をして居るか。瘠せ細つた、血の氣のない、弱々しい姿をして居るではないか。

去年の夏三重縣へ行つて或る教員の會合へ臨んだが、五分間演説といふので幾人もの教員が壇上に入交り入交り立つて、自分の實驗談やら抱負やらを述べて居た。出る教師も出る教師も、みんな血の氣の無い、瘠せ細つた弱々しい顔貌をしてゐた。私は餘りにそれが堪えられなかつたので、失禮とは思つたが閉會の場合の挨拶に教員は氣力と體力とが必要だ。成可く事務を簡捷にして氣力と體力とを養はなければならぬと云ふことを無遠慮に話して置いた。會員の中には共鳴した人も尠くなかつた様だ。

斯う云ふ話を聽かせるると何時も苦い顔をするのは校長だ、視學だ。あんなことを言つて貰ふと教員が働かなくなる、今でも働かないのにとこぼす。私は先づ斯んな校長や視學の頭腦から改造しなければ教育の實績は擧げられないと思ふ。

働かないのが本當か、働けないのが本當か。眞に働かなければならぬと云ふ自覺の無い者にどんなに督勵を加へても満足な働きの出來よう筈

は無いではないか。それを時間や規則で縛り上げで何にならう。私はもう少し私共自身の頭腦を改造して意義の有る仕事が見たい。改造！改造！改造は何れの方面から觀ても目睫に迫つた急務である。

不經濟な施設

畏友岸田牧童氏が嘗て斯んな事を言つて居た。今日の學校ほど不經濟的に仕事をして居る處は無い。圖書の購入や、器械備品の購入などに些とも纏つた考が無い。唯豫算を取つて其の豫算を使ひ捨てる爲めに、思ひ付き半分、手當り次第にどし／＼購入する。あんなものを少し吟味して有効に使つたら、もう少し役に立つた仕事が出来るではなからうかと。斯んなことを話して居た。誠に其の通りである。

今日の學校は只何でも澤山買込んで備へ付ければそれで宜いと考へて

居るらしい。其處にはつきりとした計畫が立つて居ない。其の爲めどれ位不經濟なことになつて居るか知れない。現に圖書室や器械標本室の中を覗いて見ても直ぐにそれが證明される。役に立たない品物や誰も讀み手のない書物が澤山並べられてゐる。尙又同じ様な種類のもの、一つ有つたら斯んなに澤山なくても宜からうと思はれる圖書や器械類が澤山並べてある。ほんの裝飾に過ぎないと思はれるやうな品物も尠からず有る。もう少し計畫を立て、役に立つやうに働かせたら、まだすつと少い經費で済むだらうと云ふ様な感じが直ぐに起る。

一體我が國民には經濟思想が甚だ乏しい。人の物なら使はぬが損といふ様な考で居る。役所や學校の物なら無闇に使ひ棄てる癖がある。一寸書き損へば直ぐに引破つてグ／＼、まるめて棄て、しまふ。ひどい奴になると抽斗の中から白紙を引張出して無雜作に洩をかんで棄てる奴もある。怪しからぬことだ。

確か福岡の聯隊であつたと記憶するが、乃木大將が特命檢閲使となつて檢閲に下られたことがある。其の時大將は將校集會所の便所の中を檢閲されたさうだ。大將が便所の中を檢閲されたと云ふと、屹度清潔や整頓などの檢閲であつたらうと思ふだらうが、決して然うでない。大將は糞壺の中に竹片を突込んで其の中の落し紙を引揚げて、それを一々點檢されたさうである。これは將校が公用紙を濫費しては居まいかと云ふ事を調べられたものであるさうだ。偉い人は人の氣の着かぬ所に氣の着くものだ。國民の節制力は斯う云ふ所から築き上げなければならぬ。

尙又明治天皇の御逸事として漏れ承るところに依ると、陛下は各省から差出す書類の狀袋を御取棄にならないで、一々それを切りひろげて、一寸した用件はその古狀袋の裏を御使用になつたと云ふことである。國力の培養は斯う云ふ國民の力に待たなければならぬと云ふ事を御示しになつたものであらう。畏多いことである。

私の友人の或人は古狀袋の裏を叮嚀に始末してそれを名刺に利用してゐた。斯んな考で行つたらどれだけ消耗品などの節約が出来らるであらう。やれ運動會、やれ學藝會と騒ぎ立て、役にも立たない印刷をして配付したり、大きな紙を惜氣もなく使ひ棄て、平氣にして居る。何と云ふ不始末なことだらう。諸儀式などの通知狀なども少し工夫したら、あんな不經濟な意味の無い仕事をしないで、もう少し有効な方法があるではなからうか。

これは實際私が聞いた話であるが、廣島縣の似島に收容されて居る獨逸の俘虜が或時斯んな事を申出たさうである。どうか私共に豚を一番ひ買つて頂きたいと。すると附添の將校が不審に思つて、豚を何うするかと反問すると、俘虜が曰ふには、私共は毎日食堂で麵麩を頂いて居ますが、その麵麩の粉が非常に澤山散らばります、この散らばつた麵麩の粉で豚を養ひたいと思ひます一番ひだけ買つて頂けばそれを段々蕃殖させて此の麵麩の粉で養へるだけの豚を飼つて見たいと思ひますと、斯様に申出たさうであ

る。現に私が見た時には豚が十頭ばかり養はれて居た。尙又俘虜の平生の有様を聞くと一層感心せざるを得ない。二彼等は毎朝金盥に一杯の水を貰ふ。すると其の水で先づ顔を洗ふさうである。顔を洗つてしまふと其の水を棄てないで、それでハンケチを洗ふさうである。ハンケチを洗つてしまふと其の次に水を洗濯盥に移して靴下を洗濯するさうである。それが済むと次に其の水で靴を洗ふさうである。斯うして幾たびも使用して最後に其の水を彼等が栽培してゐる菜園のキャベツに掛けてやるさうである。なんと感心なものではないか。これを我が國民の有様と比較したら雲泥の違ひではないか。水道の栓を開け放して「ジャア、ハ、ハ」と要らない水を流したり、手洗鉢の水を幾柄杓も掻い出したりするやうな習慣と較べて見たら其處に國民の節制力の如何が窺はれるではないか。將來の國民はどうしても是れでなければいけないと思ふ。米が足らなくなつたと言つては遽かに節米の宣傳を始めたり、物價が騰貴したと云つては簡易生活

をやれと騒ぎ立てる。日本人の遣方は總て是れだから困る。

戦時中の事であるが、米國でも物價が騰貴して、玉子の如き平時に數倍する高價を示したことが有るさうである。其場合に米國の人は少しも慌てないで國民相互に警戒して、非購買の組合を組織して、玉子が高ければ玉子を食はないことにしたさうである。其の爲に物價が調節されて、暴騰した物も下落して、大した社會問題を起さなかつたさうである。自由主義の米國であつても此の通りである。斯う云ふ節制がなければ百の宣傳も何の役にも立たぬ。玉子が高くなつたら平生三つ食べて居たのを一つか二つに減すれば宜いではないか、牛肉が高くなつたら其の量を節して其に應ずる策を講ずれば宜いではないか。

いくら高くなつても矢張り三つ食つてゐたものは三つ食ひ、三斤使つてゐたものは三斤使ふと云ふことになれば益々物價は騰貴するばかりである。將來の國民は何うしても斯様な點に今少しく節制力がなければなら

ぬ。
斯んな經濟思想に富んだ節制力のある國民を拵へるには學校が先づ斯んな空氣にならなければならぬ。學校の空氣が斯うなつて來ると其の中に這入つた者が自からさうなつて來る。だから學校の施設や其他を經濟的ならしめると云ふことは、それに由つて經費を節約することが出來ると云ふだけではなくて其處にもう少し大きな意味を有してゐるのである。教師の考が斯うなり學校全體の空氣が斯うなると、其處に學ぶ兒童も自からさう云ふ貴い習慣の人とならざるを得ないではないか。教師の經濟思想學校の經濟的施設は兒童教育の上から見て重大な意味を有して居るのである。

研究の自由

もう十年ばかり昔の事であるが、私が長野縣の諏訪の學校を觀たことがある。其の時其處の校長が斯んなことを言つて居た。俺は長野に十年ばかり行つたことが無い、長野に行くとき色々なることを聞かされるから、うるさいと言つて居た。長野は縣廳の在る處だ。其の縣廳の所在地へ此の校長は十年の間只の一遍も足踏みしたことが無いさうだ。

一寸頑固の様だが面白い。今日の教師にも斯う云ふ氣概が欲しい。是れ位な氣概と自信がなければ進歩するものではない。今日の教師の研究は餘りに因はれ過ぎて居る。自分自身に信賴することが出來ないで居る。自分のした事を詰まらぬものと考へて居る。さうして何でも人のした事なら偉いものと考へて居る。特に田舎に居る教師に斯んな人が多い。どうも田舎に居ますから後れ勝ちですとか、詰まりませぬとか言ふ。言ふだけならば宜いが、然う信じて居る。だから些とも自信が無い。自分のして居る事が何でも後れて居ると考へて居る。何か一つしようと思ふと先づ

人の意見を聞かなければならぬ。人の研究や人の書物を調べて見なければならぬ。さうして人が善いと言つて呉れなければ安心することが出来ない。書物に書いてなければ悪いと考へて居る。高等師範の人が何と言つた。何々博士がどう言つた、其が法律か何かのやうに思はれて居る。高等師範の人が斯う言つたといへば、もう其れは動かすことの出来ないものと考へて居る。何々博士が何と言つたといへば、それが金科玉條と考へて居る。愚な事だ。

其處に諏訪の校長の自信が欲しい。誰が何と言つても自分の信じて居ることが一番偉いと云ふ自信が欲しい。是れ有るが故にあの諏訪——天龍川の上流、諏訪湖の畔、地圖を披げて見た丈では人の住んで居さうに思はれない片田舎の教育が天下に覇を稱へたのである。

數日前も私は或る教育會に出て、之れではいけぬどうかしなければならぬと感じた。どの人の言ふとも囚はれてゐる。自分のした事に自信を有

つてゐない。折角研究したことを直ぐに壊されてしまふ。さうして其れを當り前の事と考へてゐる。何といふ俯甲斐の無いことだらう。是れでは進歩と云ふことは望まれない。而もどの教師も席に列して居る私が氣になつてならない様で、一寸議論が起ると私に何うでせうと尋ねる。

私は、其の都度どちらも宜いのだ、どちらも間違つてゐないと答へた。會員はそれが物足りないと見えてどちらも宜いか決めて呉れと懇へる。決められるものではない。どちらも自分が宜いとして實行したことである。其れ以上の事は無い筈である。それで私は最後に斯ういふ事を話した。

一體君等の研究は間違つて居る自分の研究の尊いことを忘れて他人の意見にのみ追従しようとする、それでは進歩しよう筈が無い。人の百の研究よりも自分の一つの活きた研究の方が遙に増である。其には尊い生命が籠つて居る。他人の研究に囚はれてはならぬ。人が何と云はうが自分は自分の研究を眞面目に眞剣に續けて行くだけの勇氣がなければならぬ。

今日の教師は研究の自由を自分から束縛して居る。自分で自分の綱に懸かつて苦んで居る。足掻いて居る。馬鹿らしい事ではないか。君等も苦んで居るだらう。足掻いて居るだらう。君等が其の苦みから免れたら、どれ程愉快に、どれ程自由に、君等の研究を進めることが出来るであらうか。今日の研究会なども確に囚はれてゐる。それでは折角の研究も些とも進まない。惜いことだと云ふやうなことを話した。

私は本當にさう考へて居る。今日の教師は確に囚はれて居る。自己に信頼し、自己の経験を尊重することを忘れて居る。今日の教師は一日も早くこの囚はれた思想から脱却しなければならぬ。さうして研究の自由を得なければならぬ。

人か設備か



「汝の行く處は總て是れ教室」

(一)

田舎に行つて一番目に着くものは學校と避病院である。今日の學校は設備を完成させると云ふ事に全力を注いでゐる。校舎は年々に増築され理科室や圖書室や割烹室の設備まで、本當に勿體ないやうな設備である。其の爲めに支出する教育費は大したもので、歳出の七割以上を占めてゐる。斯う云ふ點からすると教育は非常な進歩をした様だ。だが、是れが本當の進歩であらうか。

一體設備と云ふものがどれだけの價值があるものであらう。今日の教師は設備に依つて人を教へようと考へて居る。或る學校では地歴室を暗室にして、幻燈を使つて教授して居る。或る學校では講堂を暗室仕掛にして活動寫真を使つて教育しようとして居る。暗闇の中から教師の聲がする。斯うなると蓄音機でも使つたら理想に近い教育が出来るであらう。

教育は斯んなものではない。却て設備の不完全な方がよい。不完全な設備の中に却て意味有る教育が行はれる。ランプのホヤを取つては真空の實驗を行ひ、火吹竹を使つては壓搾空氣の實驗を行ふ、其處に意味がある。教師に確かな考さへあれば設備の如きは何うでも宜い。教室が無ければ檐下に立つても教育は出来る。いや、それが本當の教育だ。

チャンと道具立をして置いて、あゝせよ、斯うせよと指圖されて、機械の様に働く教育が何にならうか。今日の教師は餘りに設備に縋り過ぎて居る、設備が悪ければ教育は出来ないものと考へて居る。それが大いなる謬見である。

何不足のない贅澤な生活をして居る貴族の子弟に傑物が出来ないのは、境遇が人を愚にする一番確かな證據である。古今東西を通じて偉人傑士は困苦缺乏の裡から生まれて居る。貧家に生まれ缺乏の裡に育つた人は却て幸福であるかも知れぬ。

今日の學校は贅澤な貴族の暮しを夢みてゐる。貧家の子弟をも何不足ない境遇の下に教育しようと思へて居る。是れは抑々の誤りである。寧ろ總ての兒童を缺乏の裡に置いて教育すると云ふことが兒童の爲めである。贅澤は人を弱くするものである。安逸は人を愚にするものである。

私は過激かも知れない。併し斯う考へてゐる。本當に斯う考へてゐる。今日の教育を根本的に改造して眞の教育を行はうと思つたら、先づ現在の教師から現在の學校を取上げてしまふが宜い。さうして彼等から先づ教室を奪ひ總ての設備を取上げてしまふが宜い。廣い天地の間は總て教室である。野もあれば林もある。海もあれば山もある。寺もあり宮もある。會社もあり工場もある。教室の狭い天地の中に押込んで不自然極まる飯事（めし）の様な教育で何うして活きた人間が出来ようか。海で說け、山で說け、森で說け、林で說け、汝の行く處は總て是れ教室である。

(二)

私の言方は少し過激に趨つた。併し斯んな考でなければ本當の教育は覺束ない。私は今日の教育に何うしても嫌らない。見るもの聞くもの總て嫌らない。私は何うしても現狀に満足することが出来ない。私は氣狂しくなつて来る。人には氣狂ひじみて見えるかも知れない。

此間も或る學校で、君等は何時も設備々と頻りに設備の完成を要求して居るが、設備が君等の要求して居る通りに完備したら完全な教育が出来ると考へて居るか、一體設備はそんなに貴いものか、そんなに價値の有るものかと云ふやうなことを話した。さうして職員室などは無くてもよい、先生は皆教室の隅々に割據すればそれで結構、却てその方が便宜であると云ふやうなことを話して見た。すると其の學校の校長さんがそれは人が揃へばですが今の有様では迎も六ヶ敷い、一緒に集めて置いても中々統一す

るのに困つて居る、それをバラ、バラに割據させたら大變が出来ます、今でも監督が出来ないものをと云ふやうなことを言つて、頻りに反駁された。

是れだからいけない。人が揃はないからいけないと言ふが、揃はなかつたら現在の儘にして置くが宜いが、人が揃はないから狭苦しい教室の中に一舉一動規則づくめでやると云ふのか。それだからいけないと云ふのだ。斯んな考で居るから、善いと知つてもそれをを用ひることが出来ない。悪いと知つてもそれを改善することが出来ない。矢張り現狀維持で押通さなければならぬ。情ないことだ。

今の有様では出来ない、そんな事をしたら大變が起ると云ふ。なぜ今の有様では、現狀を維持せなければならぬかそれが分らぬ。今の教師が教師として不十分だと云ふのなら、現狀を維持しても矢張り不十分である。現狀を維持すれば不十分な教師でもよいと云ふのなら、兎も角も、現狀でも不十分ならば五十歩百歩ではないか。不十分な教師に不自然な事をやら

せるよりも寧ろもう少し解放して兒童の自由を許した方が宜いではないか、兒童は教師が無くても自分の力でズン、ズン、進歩するものである。寧ろ規則づくめで締めつけられるよりも其れの方が増である。

今でも監督が出来ないものを尙更不取締になるといふ考へなどはまるでお話にならない。是れだからいけないのだ。教育の進歩しないのは斯う云ふ考へで居るからだ。總ての教員を統一して自分の考へ通りに働かせようとする。之が抑の謬りである。各人の人格を尊重しない學校に何うして活きた教育が望まれよう。

既に不十分と認めながら一學級を任せて居るではないか。任せて居る以上は絶対にそれに信頼しなければならぬ筈である。任せて置いて其れに自由を許さない。何といふ矛盾であらう、何といふ壓制であらう。

今日の學校は校長が統一するに都合の好い様に拵へられて居る。總ての設備が然う出来て居る。教師の自由を束縛する様に出て居る。私は

斯様な意味からして今日の學校を改造して、もう少し自由なもう少し暢んびりしたものにして見たい。でなければ本當の教育は望まれない。學校の改造と、兒童と教師の解放とは教育改造の最急務である。

教師と教科書

私は曾て或る縣の教育會で澤柳博士と一緒に講演したことがある。其の時博士の講演は道德教育と云ふのであつた。博士が二時間、私が二時間毎日割當てられた時間にそれ／＼の講演をするのであるから遺憾ながら博士の講演を緩くり拜聴することが出来なかつた。ところが確か三日目の事であつたと思ふ、博士は堂々と教科書論をやられたさうだ。國定教科書の缺陷や、教科書に囚はれてはならぬと云ふ事などを文部省を向ふに廻して痛快に講述されたさうだ。

教科書は何にもならぬ、死物だぞ、そんなものに囚はれるやうな教師が何になるかと云つたやうな随分痛快なものであつたらしい。すると其の席に列して居た幹部連が大騒ぎを始めた。あんな事を話されては誠に困る。あんな事をあゝいふ位地に在る人が堂々と講演されては縣下の教育者に非常な誤解が起る。書生論だ、怪しからん。あんな位地に在る人があんな暴論を吐かれては困ると騒ぎ立てたさうだ。

其日の午後郡視學が私の處に来てどうも困りました甚だ迷惑をしましたと頻りにこぼして居た。是れだからいけない。頭腦の硬化した人は是れだからいけない。何でも一寸新しいことを聞くと目を圓くして危険視する。何でも害の無いやうな、誤解の起らないやうな、在來りの平凡なことを聽かせることで満足する。つまり自分の口で言ふべき叱言を他の人から言つて貰ひたいのだ。教員連が盲目的に一生懸命で働くやうな話をすると非常に喜ぶ。今日は結構なことを聽かせて貰ひましたと云つて有難

涙を溢す。若い人の頭腦はそんな軟弱なものではない。現に其の晩四五人連で私の處を訪問して來た若手連は非常に痛快だと云つて喜んで居た。本當に氣が晴れ／＼しましたと云つて居た。幹部が騒いで居るのが氣の毒だつたと云つて居た。

教科書は死物である。活用する人に依つて何うでもなるものである。教科書を經典視すると云ふことは間違である。時代後れである。傳統的の通弊である。今日の教師は一般に教科書を活用するといふ意氣を缺いて却つて教科書に使はれて居るやうな傾きがある。これでは活きた教育は覺束ない教科書は方便物であつて、それが教育の本體ではない。殊に現行の教科書は誠に貧弱なものである。中等學校といはず小學校といはず、之を歐米の其れと比較するとまるでお話にならない。内容といひ體裁といひ、如何にも貧弱なものである。而もそれが固苦しい骨ばかりで無味乾燥と來て居るから堪つたものではない。試みに修身書を開いて見たまへ。

まるで砂を嚙むやうなものである。あんなものが道德の教育にどれだけの影響を與へるか。あんな乾涸らびた固苦しいものが何にならう。其他地理といひ、歴史といひ理科といひ、どれが本當に兒童の趣味と興味に適つて居るであらう。地理を開けて見給へ、歴史を開けて見給へ、理科を開けて見給へ、本當に涙が出さうになつて来る。これでは駄目だ。どうしても駄目だ。もう少し兒童の心にピッタリと觸れたものでなければならぬ。

教科書は兒童の精神的の滋養でなければならぬ。清新で而も味の有るものでなければならぬ。手取早く言へば子供が飛付いて讀む様なものでなければならぬ。さうして抛つて置いても其れからどれだけの知識と趣味とを習得し得るものでなければならぬ。是れだけの要素を備へない教科書は教科書としての資格が無い。

話がつい教科書論になつてしまつたが、兎に角現在の教科書は大いに改造を加へなければならぬ。教科書を授けるといふ事のみ腐心して其れ

以上に出ることを知らない教師は教師としての資格が無い。教科書に使はれるやうな教師に活きた教育は望まれない。教科書は何處までも方便物である。有つても宜ければ無くても宜い。否な寧ろ力のある教師には教科書の如きものは却て足手纏ひである。無い方が宜い。教育の大切な要素は教師の人格である。見識である。

教師と個性

教育は進歩を生命とする。進歩は發明、創始、工夫に其の第一歩を始める。この第一歩を踏出すものは天才である、個性の高い程度に發達した人である。

今日の學校は教師の自由活動を妨げて居る。教師の個性を認めて居ない。兒童の個性の尊重は叫ばれて居るが教師の方は忘れられて居る。是

ではいけない。優良な教師も平凡な教師も一把一束に取扱はれて居る。是ではいけない。

教育は獨創的の性質を有つて居るものである。だから教師の個性に基くものでなければ活きた教育は覺束ない。學校は今少しく教師の自由を許さなければならぬ。個性の發露を自由ならしめなければならぬ。

今日の學校は意志主義ではなくて命令主義である。一舉一動規則づくめである。些とも自由が許されて居ない。さうして自己の自由を束縛されながらそれを當然と考へて居る。人の自由を束縛しながらそれを至當な事と考へて居る。今日の教師の頭腦はさう出来て居る。

今日の教師の研究は獨創的の氣分に缺けて居る。他人の足跡を履んで進むべきものと考へて居る。他人の經驗や他人の研究を尊重してそれを型にして仕事をしようと考へて居る。そんな教育で何うして活きた教育が出来よう。そんな教師に依つて行はれる教育が何にならう。猿真似は

教師の恥辱だ。

凡て進歩は個性主義の特權である。今日の社會に個性本位の思想と制度とが勢力を占め發達を遂げつゝある際に獨り學校だけが舊式な頑張方をして居るのは頑迷と謂はなければならぬ。學校は個性の開發に障害を與へて居る。而もそれはもう久しい事である。今日では殆どそれが痼疾となつて居る教育改造の第一歩は何うしても此の痼疾を療治する事である。此の痼疾を癒すことが出来なかつたら教育の進歩は覺束ない。

今日の學校は教師の自發的の活動を獎勵しないで外的の權威にのみ依頼して居る。視學官だとか視學だとかの一舉一動を非常に氣にしてゐる。さうして自己の研究を尊重して居ない。チャンと定められた埒の外に出ることを非常な罪惡と考へて居る。是は一面からすると制度の罪である。又社會の罪である。併して其の主な病源は教師其の人の罪である。

發明創始の分野は個性の多態なだけ其れだけ多方面である。訓練とい

ひ教授といひ、他人の方式を模倣したものでは何にもならない。活きた方は教師の個性から生れて來るものである。教育であれ藝術であれ教師其人作者其の人の個性を認め、獨創の自由を與へなかつたら、其の教育其の藝術は、ブ、アなものである。教育は獨創的のものだ。其の人特有のものだ。學校は何處々々までも教師の個性を認め獨創の自由を與へなければならぬ。

教員氣質

私は曾てツルゲネーフのルーヂンを讀んだことがある。この小説の主人公となつてゐるルーヂンと云ふ男は極めて興味のある性格の人で、口ばかりで手の伴はない人、頭の人で實行の人でない、と云ふ一種の薄志弱行な人物である。ルーヂンは三十五六の男で或る機會に露西亞の或る田舎で

一二を争ふ石造の大家を構へて居る、ダーリア・ミハロウナ・ラスンスカヤと云ふ金持の未亡人の女地主の處の晚餐會へ招かれて行く。で、彼はあつまつた人々に向つて巧みに慈愛の必要だとか犠牲の必要だとか人間の事業の不滅だとか言つたやうな大きな抽象的の問題を論じ一座を煙に巻いてしまふ。それからルーヂンは此家に引留められて一ヶ月許り寄食して居る間に彼は頻に高尚な理想と高遠な事業を口にしながら未亡人から非常な信用を博した。

彼は又更に未亡人の娘のダーリアと云ふ十七になる娘から崇拜された。此の娘の崇拜は遂に彼に對する戀となる。彼も亦此の娘に戀して頻りに熱情ありげなことを口にす。斯うして二人の戀は段々に進んで、娘は自分を犠牲にしても彼と結婚しようと思つた。娘の母は之を聞いて非常に驚いて其決心を取返さうとした。娘は意を決してルーヂンと一緒に此の地を去らうとした。さうしてルーヂンを誘ひ出して最後の決心を追つ

た。ルーヂンは口先ばかりで豪きうなを言つて居たが、今娘から非常に突詰めた決心を聞かされて、大にたじろんで、煮え切らない挨拶をした。

娘はルーヂンの語るに足りない、口先ばかりで實行の伴はないことを非常に侮蔑して愛してゐたルーヂンを捨て、しまつた。ルーヂンは自分の愛した女から捨てられ、此の家を迷ひ出て、それから彼方此方を彷徨つて、或は中學校の教師となつたり、或は實業家の手先になつたりして居た。併しどの仕事に手を出しても皆口先ばかりで實際何一つ出来なかつた。つまり彼は口の人、頭の人で、手の人、實行の人でなかつた。斯うして浮草のやうに彼方此方を彷徨ひ歩いて後は遂に流れ、て佛國巴里にさすらつた。さうして革命黨の亂に投じてとう／＼悲惨な最後を遂げた。これがルーヂンの梗概である。

私は此の小説を讀んで、何だかくすぐられる様が氣持がした。私自身が罵られて居る様な氣がした。私は地方の小學校にも五六年居たことがあ

る。地方の師範學校にも五六年居た。高等師範學校にも七八年居た。併し今迄の自分のして來た事を振返つて見ると、何もかも随分囚はれて居た。口では立派なことを言つて居たが行は些とも之に伴はなかつた。薄志弱行だつた。ルーヂンだつた。

私は何うして斯んなであつたかを反省して見た。私のこの薄志弱行は私自身の弱點であつたのは言ふ迄もなかつたが、一面には社會の罪である。社會の罪であり制度の罪であつたことも確かである。私の今の苦悶は私のみ苦悶ではあるまい。過去半生の囚はれた生活は一面から言ふと現代の教員氣質であると云ふことが出来ると思ふ。

ツルゲネーフがルーヂンを出した十九世紀の中葉は露西亞の政治史上の暗黒時代で、ニコラス一世の亂暴な専制主義が一代を支配し、それに合はない言行を敢てする者は忽ち其の身を滅ぼすといふ運命に遭遇した時代であつた。此の専制主義に反對の思想を抱いて居る者、竝に、自國の現在將

來に關して頭を悩ます輩は到底其の抱負を政治上に實行するの望がなく爲に孤獨寂寞を感じ、果ては自暴自棄に傾くやうになつた。殊に此の傾向は國家の將來を夢みて居る青年男子を非常に刺戟した。此に於て彼等は滿腔の不平を抱きながら遂に政治界に望を斷つたが胸中に鬱積した不平は其の儘には消失せない。政治と斷ち活動を世界に捨てた彼等は其の反對に、現實に縁遠い空想世界に赴いて、哲學、宗教、藝術などの考察に其の精力を集中した。さうしてそれが益々深くなるに隨つて彼等は益々實行界に遠ざかつて、遂に口ばかりの人、頭ばかりの人となり、口の前では非常に豪いことを言つたり、頭の中では非常に大きな事を考へたりするが、手は一向其れに伴はないと云ふ片輪な人間となつてしまつたのである。隨つて現實生活上では浮草の如く、安住した態度がなく、薄志弱行の人間となつてしまつたのである。此の時代の代表的人物として描かれたのが即ち此のルーデンである。

佛蘭西の批評家ルナンがツルゲネーフを評して「彼は全人類の化身である。全世界は彼の心の内に住居して、さうして彼の口を藉つて其の思想を發表した」と云つて居るさうである。ルーデンの薄志弱行は當時の露西亞の社會が産み出した産物である。私共の薄志弱行は現代の社會が産み出した産物である。私共の二重生活は現代の制度が産んだ結果である。現代の社會と現代の制度とは私共をして何うしても二重の生活を営まなければならぬ様に強て居る。若しも旗幟鮮明に自己の信する所を行はうとすると色々な非難と色々な壓迫とが頭上に加つて來る。私共は其の壓迫と闘はなければならぬことを知つて居た。併し時代は其を許さなかつた。私共の或者は勇ましく闘つて仆れた者もある。そんな者は多くは不遇と薄倖に一生を送らなければならなかつた。だが、多くの者は闘ひに疲れて、成るが儘に任せて居る。因襲の儘に何等自信もない仕事を唯お役目的に毎日々々繰返して居る。

斯様に自己の仕事に信仰を有つことが出来ない様になると、人は次第に現實と遠ざかつて空想のみに趨つて行く。さうして口ばかりの人、頭ばかりの人のみが多くなつて、實行の伴はない不具者のみになつて来る。口先では豪いことを言ふが手は些とも働かない片輪ばかりが多くなる。今日の教育界の現状が是れだ。現在の教員氣質が是れだ。

眞實の教育は斯んな片輪な教師には望まれない。現代の教育を根本的に改造しようと思ふならば、先づ社會を改造し制度を改革して一日も早く二重の生活に悩んでゐる働きのある教師を解放しなければならぬ。さうして沈滞し切つた現代の教育を刷新して新たな生命を附與しなければならぬ。

思想問題と教師

(一)

最近所謂思想問題なるものが八ヶ間敷く論争せられることになつて、新しい思想と舊い思想とが互に打合つて火花を散らして居る。そして危険思想だとか過激思想だとか云ふやうな非難の下に随分嚴重な取締を受けて居る者も尠くない。

一體危険思想といふのはどんなものであらう。過激思想といふのはどんなものだらう。今日危険思想だとか過激思想だとか銘をうたれてゐるものも、よく吟味して見ると、果して其れが過激思想であるか危険思想であるか判断に苦しむことが尠くない。物は見方で、どうでもなる。過激思想と考へれば過激思想になるし、危険思想と考へれば危険思想となる。危険思想だと思ふ人は其の思想を取らなければ宜いのであつて、別にそれを兎や角非難する必要もあるまい。過激思想だと思つたらそれにかぶれない

迄のことである。

學者の中にも確かに二派ある。雑誌や新聞などで發表されて居る先覺の意見にも二派ある。どちらも間違つてゐないと思ふ。思想は自由である。自分の信するところが一番確かである。だから縦し過激思想であるとしても、危険思想であるとしても、其を無暗に壓迫するといふことは甚だ面白くない。壓迫は總ての場合に於て罪惡を生むものである。

先頃勃發した八幡の大盟休の如き、やはり壓制が悪いのである、壓制したからあゝいふ事になつたのである。又それに對する態度も面白くない。思想問題は思想で解決しなければならぬ。精神的のものは精神的に解決しなければならぬ。金を與へたからと云つて決して満足するものではない。優待したからと云つて満足するものではない。やはり斯様な問題は思想を與へて解決するより外に手段は無いのである。唯一の解決法は労働者其のものに思想を與へるに在つたのである。總じて知らないほど

怖ろしいものは無い。誘惑といふものは斯んな場合に加はるものである。無智ほど怖ろしいものは無い、無自覺なものほど怖ろしいものは無い。だから斯う云ふ思想問題の混亂した時代に於ては是非總ての人に思想を與へ、總ての人に理解を與へることが必要である。今日の現狀に於ては労働者に金と時間とを與へるのは甚だ危険である。

今日の社會は一般に現實的に唯物化しつゝある。言換へれば其の日暮らしの傾きがある。成金が跋扈するものも此の爲めであるし、労働者が贅澤三昧をするものも之が爲めである。無論唯物化して行くと云ふとも必要が無いとは云はない。それも確かに必要である。物質欲に冷淡なれと云ふのは無理である。併し其の一方には唯心的の色彩がなければならぬ。しつかりした理想がなければならぬ。

金持が金だけで満足してはならぬ。金より以外にもう少し尊い物を持つて居なければならぬ。労働者が唯金を儲けるだけを考へてはならぬ。

もう少し尊い物を求めて居なければならぬ。實際人間はさう云ふ物を要求するものである。私の知人が九州大學に居るが、其知人の話に大學の教授連は専門以外に色々な道樂を有つてゐる。病理學の教授でありながら考古學に堪能な人もあるし、小兒科の博士でありながら植物學に通じた人もある。耳鼻咽喉科の博士であつて立派な文學者である人もある。書畫の鑑識に通じた人もあれば、立派な音樂者として立つて行ける人もあるさうだ。此處だ。此處に人間の尊い所がある。いつも病人ばかりの中に這入つて藥臭い中に生活して居る人は一方に何か缺けた或ものを補はなければならぬ必要が起つて来る。死人の解剖ばかりして居る様な人には何か他に慰安を求めなければならぬ事になつて来る。其處だ。其處が人間の尊い所だ。

今日の所謂成金連なども其の通りで、金が欲しい金が欲しいと思つて居る間は其の方ばかりに心が向いて居る様であるが、さて愈々其の金が手に入るとそれだけでは満足が出来ない。金以外に何かを要求する。その何を要求するかと云ふとに依つて人間の價値が決つて来る。此處に大いなる價値が有るのである。今の時代は確かに斯様な煩悶や斯様な要求や斯様な缺乏を懇へてゐる時代である。さうして沈滞し切つた時代である。沈滞は一面に活動を意味してゐる。その活動がどんな方面に向くかと云ふことが最も危険である。どちらかに向ふ。どんな方面かに向ふ。この沈滞の次に來る危険といふことが非常に恐ろしい。

何うしても沈滞の次には危険が來なければならぬ。その危険を経なければ眞の覺醒の時期は來ないのである。大事變の後には思想が進歩すると云ふことは確かな歴史上の事實である。歴史が然う證明して居る。今日所謂危険思想なるものが生れるのも是れが爲めで、斯様な沈滞した時期には必ず危険思想なるものが生れて來なければならぬ。斯様な混亂時代に於ては之を救済する途は外に無い、唯一つである。それは教育である。

之を救済するには教育の力を藉るより外に途は無い。教育の力によつて此の混亂時代を善導するより外に仕方は無いのである。教育だ。教育者が最も活動しなければならぬ時期は此の時期である。

(二)

すべて何でも人の考へてゐるを危険視するのが一番恐ろしい。又一番悪い。自分を以て人を判断すると云ふことは如何なる場合に迄も面白くない。他人の考へてゐる事に對して、自己といふ尺度で以てそれを量らうとすると、何時も其の間に衝突が起つて来る。煩悶が起つて来る。そんな人が新しい考や耳新しい思想に接すると何時でも其を危険視するものである。而もさういふ囚はれた頭腦を有つてゐる人は割合に教育者の中に多い。硬化した頭腦の人は教師や軍人の中に最も多い。

ほんの此間のこと、陸軍記念日といふので、或る師團の記念會に招かれて

師團參謀の記念講演を聴かされた。其の參謀の話の中に松井須磨子の死と乃木大將の死とを同じ様に考へて居る者がある。是れは怪しからん事であると非常に慨嘆して居た。是れだからいけない。死に等級が有らう筈が無い。此の參謀は死といふものに等級を附して居るのである。堪つたものではない。死は一である。命の惜いとは同じ事である。又生命の貴いことも同じ事である。須磨子であるから何うの乃木將軍であるから何うのと云ふことは無い筈である。斯んな考で居るから日本の軍人の中には將校が貴いもので兵卒は何うでもよいと考へてゐる人が多い。一人の將校の功績を述べるとは忘れないが、多くの兵卒のそれが爲めに犠牲になつたことを些とも念頭に置いて居ない。學校の教師が説く歴史教授でも斯う云ふ間違が非常に多い。楠木正成の忠義な事を説くことは至れり盡せりであるが、正成に味方をして正成を援けた多くの士卒の忠勇を説くことを忘れて居る。足利尊氏の叛逆を説くことは力めて居るが、それに

味方した多くの賊輩の考の間違つて居た事を説くことを忘れて居る。これでは折角の歴史教授も甚だしく價値を失ふ。斯う云ふ頭腦で説く修身、斯う云ふ頭腦で取扱はれる歴史教授、實に落莫たるものである。不徹底なものである。

私は曾て或る縣の師範學校で開かれた縣下の聯合教育會なるものを見た。それは國民精神の涵養方案といふ題目であつた。其の席上で縣下の各地から集まつた教育者が盛に論争して居るのを聴くと、今日は實に危険な時期である、危険思想が蔓つてゐる、是非この危険思想を撲滅しなければならぬ、過激思想が流行しだしてゐる、此の思想を根絶しなければならぬと云ふやうな意見が其處にも此處にも擡つた。さうして其の危険思想、其の過激思想を撲滅し根絶する唯一の方案は、我が國體の麗はしい所を知らせる事である、忠孝一本の思想を打込む事であると云ふやうな意見が最も有力であつた。結構な事である。然うありたいものである。

だ。其の國民精神を養ふといふ實際方案に至つて見ると誠に振はないものであつた。議論は誠に堂々たるものであつたが、扱その實際といふ點に至つては甚だブアなものであつた。やれ神棚を學校に拵へて伊勢の大神宮を御祭りせよとか、國旗を禮拜させよとか、朝晩帝都に向つて禮拜させよとか云ふやうな事に過ぎなかつた。

帝都に面して朝晩禮拜させると云ふことは決して悪い事ではない。結構な事である。然うありたいものである。國旗を禮拜させると云ふことも悪いことではあるまい。神棚を學校に設けると云ふことも別段咎めだてする程のことでもない。併しそんな事で斯う云ふ思想の混亂時代、所謂危険思想だとか過激思想だとか云つてゐる其の思想の大きな波に逆ふことが出来るであらうか。其處だ。私は其時に考へた。是れだけ多數の人が集まつて居るが此の中に本當に思想問題の解つてゐる人が何人有るであらうか、此の先生方が云つて居る危険思想なるものはどんなものであらう

か、過激思想と稱して居るものはどんなものであらうか、斯う云ふことが考へられて非常に可笑しかった。

物は知らないのが一番恐ろしい、食はず嫌ひが一番危険である。能く知らないで兎や角批評するのが一番恐ろしい。今殆ど通用語となつてゐるデモクラシーなどもデモクラシーの思想そのものが悪いのではなくて、寧ろ其を穿きちがへる者の多いのが悪いのである。而もこの穿き違へは先生達の中に最も多い。デモクラシーは現在の社會組織を破壊するとか、現在の秩序を紊るものであるとか云ふやうな時代後れの頭腦を有つて居る者が随分多い。

是れもほんの此間の事であるが、或る學校で地理の教授を見せられた。それは日本の位置と云ふことであつた。その教授が頗る振つてゐる。先生は頻りに世界統一主義を唱へて、日本は世界の盟主たるべき使命を有つて居る、日本は世界を統一すべき使命を有して居ると云ふやうなことを頻

りに述立て、如何にも易々と世界統一が出来るかの様な話をして居た。授業の後に其の先生の意見を叩いて見ると、其の先生は如何にも得意氣に侵略主義統一主義を滔々と述立てた。私はそれに對して批評を加へるのも餘り大人氣ないと思つて黙つて聽いて居た。

後から考へた。本當に是は黙つて過ごさるゝ事ではない。あの先生だけならば宜しいが。併しあの先生は毎日あんなを兒童に話して居るとすると、あんな思想を注込まれた兒童が誠に可哀相なものである。柔かな何も知らない白紙のやうな頭腦に聽くさへもゾツとする様な侵略主義統一主義を堂々と述べ立て、根強く頭腦の中に打込まうとして居る。是れ程危険なものはない。是れ程恐ろしいことはない。

總て無智ほど恐ろしいものはない。無智な教師ほど危険なものはない。新しい思想を危険思想だとか過激思想だとか云つて騒ぐよりも、寧ろ斯う云ふ教師の頭腦を改造する方が餘程急務である。世界の氣勢が何うなつ

て居るか、日本が今何う云ふ位置に在るか、又將來どんなにして進んで行かなければならないか、國民は何う云ふ覺悟で居なければならぬかと云ふ様な事に對しては些とも確信を有つて居ない。唯途方もない、時代後れの考へで世界統一などを夢みて居る。誠に危険千萬な事である。

社會は日に日に進んで居る。國民の自覺の必要なとは日に日に痛切である。社會がどんなに進んで居るか、人の思想がどんなに進んで居るか。そんな事に無自覺な教師は却て兒童の方から見放されてしまふ。今日ではまだ小學校にはストライキと云ふやうな事の起つたことを聞かないが將來は起らないとも限らない。兒童の思想がすん／＼進んで行くのに對して教師の思想は些とも進まない。兒童が進んでゐるのに對して教師は依然として舊い思想で押通さうとする。さう云ふ矛盾に對しては屹度ストライキが起つて来る。排斥運動が起つて来る。それは當然だ。進みつゝある教師のみが人を教へる権利がある。硬化した頭腦の教師

では生きてきた兒童の教育は出来ない。教師は何時も新しい思想を有つて居なければならぬ。さうして社會の先覺者たる自覺を有して居なければならぬ。

教授法の研究

或る師範學校の訓導の人が私の處へ來て、私は此頃綴方を研究して居ますが、どうも困つて居ます。どんな書物を読んだら宜いでせうと尋ねた。私は斯んな質問を受けたことがこれまで何遍あつたか知れない。

私は其の人に君はどんなにして研究して居ますかと聞いて見ると、何々さんの教授法も見ました、何々さんの教授法も見ましたと教授法の書物を澤山挙げる。其で満足が出来ますかと聞くと、いやどうもしつかりとした意見が立ちかねて困つて居ます、どうしたら宜いでせうと如何にも煩悶し

て居るらしい。是はどの質問者も同じやうだ。

私は斯う云ふ場合に何時も次のやうに答へる。一體教授法を教授法で研究するのは愚の骨頂だ。自分の教授法は自分が踏開くべきものであつて他から學ぶべきものではない。教授法は理窟ではない。信仰である。信仰は他から與へられるものではなくて自分の心に自得すべきものである。考へて見給へ。人の教授法をどんなに澤山讀んでも其人以上の考は出ないではないか。あの人は斯う云ふた、あの人は斯う云ふたと色んな人の考を知るだけで其等の人以上の考は出ないではないか、其よりももう少し大きな處に目を着けて、文章其物に就て今少し深入りして研究して見給へ、屹度横手を打つて此處だと覺る處があるであらう。語法や修辭法の研究も必要であらうし、新しい文學書も讀んで見るが宜い。併し特に力を用ひなければならぬとは君自身の文章力を進めるとだ。文章を書いて見ることだ。と斯んなことを話して聞かせた。是れは私の信念だ。私の教授法

觀だ。

一體今日の教師の所謂研究は大概斯んなもので、教育教授の研究と言へば先づ澤山な人の書物を集めて、その中に没頭してあれも讀まなければならぬ、これも讀まなければならぬと躍起になつて努力する、斯うして研究する間に何時となくそれに囚はれて大切な自己と云ふものを忘れて了ふ、これでは獨創的の考への出よう筈がない。唯他人の教に追従して他人の糟粕を舐るだけだ。馬鹿らしい事だ。

活た教授法を得ようと思ふならば今少しく教授法を超越しなければならぬ。さうして根本的の吟味に力を用ひなければならぬ。他人の教授法を高い處に置いて下から見上げる事を止めて、上から見下して一呑みにするやうな意氣でかゝらなければ駄目だ。自分の教授法は自分のもので誰が何と言つても動かないものでなければならぬ。教授法は理窟ではない、實際である。信仰である。

第四部

- 労働と教育
- 職業と教育
- 鑑賞と教育
- 性欲と教育
- 學用品問題
- 進級制度の革新
- 婦人問題と女子教育
- 掃除問題と訓育
- 不良兒童と訓育
- 宿題問題
- 教師論
- 校長論
- 視學論
- 師範學校改造論
- 教育會の改造

勞働と教育

(一)

或る學校に行くと、下度放課後で、児童がせつせと掃除をやつて居た。先生は教室の入口にふん跨がつてそれを眺めて居た。まるで看守が囚人を監視して居るやうだ。次の教室も、其の次の教室も同じやうだ。二三の教室を通過して其の又次の教室へ行くと、此處では子供が箒を振廻して變な身振で芝居の真似をやつて居る。私が通りかゝるとハツと驚いて掃除を始めた。私は可笑しさを忍んで先生はと聞くと、教務室にと云ふ。この教室には先生が居なかつたのである。先生が居ないので、ふざけて居たのだ。其處へ私が通りかゝつたので、私を先生かと思つて驚いたのである。今日

の學校の所謂訓練なるものは斯んなものだ。情ないことだ。

一體児童に掃除をさせるのは何の爲めだらう。單に學校を綺麗にする爲であらうか、小使の手が足りないから子供にさせると云ふのであらうか。學校は随分澤山な勞働を児童に課して居る。教室の掃除は無論のこと、學園の手入をさせたり、運動場の草取をさせたり、理科實驗の準備をさせたり、後片付をさせたり、随分いろ／＼と使はれてゐる。これらは教育といふ立場から見るとどういふ意味が有るであらうか。唯児童に仕事をさせ働かせること云ふだけではいけぬ。何うしても其處に大きな意味がなければならぬ。學校を綺麗にする爲めにと、小使の代りに使ふとかいふ様な考で、無暗に児童を追使ふやうであつたら、それは教育ではなくて苦役である。學校ではなくて監獄である。

ところがだ。不幸にして今日の學校は教師が看守となり、児童が囚人となつて居る。だから、先生が大きな目で睨みつけて居ると正直に働くが、先

生が居ないと直ぐに芝居の真似を始める。先生の前では猫を被つて大人しくして居るが、先生の居ない處では獸もののやうに野性を發揮する。これではいけない。教育はそんなものではない、そんな表裏のあるものではない。

今日の學校は勞働の尊むべきことを忘れて居る。勞働の神聖なことを知つて居ない。秋吉の偉人本間俊平氏は自ら石工となつて人を教化して居る。眞の教化は是れでなければ駄目だ。口先ばかりの教育が何にならう。頤で指圖する教育が何にならう。兒童と共に額に汗するところに尊い意味がある、兒童と共に箒を握るところに意味がある。試みに兒童より先に雜巾を握つて見たまへ。兒童が何うするか。決して見てはゐない。先生、私がしませう、私もしませう……そこに面白い所があるではないか。教師が先に箒を執つて働けば兒童は働くなと云つても働かずには居ない。箒を振廻して芝居の真似をする兒童もなければ、猫を被つてずるいことをする

兒童もなくなる。

或る學校では校長が眞先に立つて、男の先生も女の先生も皆上衣を取つて兒童と一緒に拭いたり掃いたりしてゐた。先生も兒童も皆楽しさうに働いてゐた。外から見ても羨ましい様だつた。是れだ。本當の教育は是れだ。此の味の分らない人には本當の教育は出來ない。學校の教育は總て斯うならなければならぬ。兒童と教師が友達になつて、ちつとも隔てのないものでなければならぬ。嘘偽りのない本當な教育でなければならぬ。口先ばかりでない、腸からの教育でなければならぬ。斯うして學校を意味有るものと成さなければならぬ。

(一)

我國の人は一般に勞働の尊いことを知らない。勞働者といへば社會の下層の者と考へて居る。之れは、長い間の歴史が斯うして居る。上流の人

は働かないものと極めて居る。働く者は皆下の者と極められて居る。近頃餘程此の考が變つて來た様だが、まだなか／＼長い因襲は打破することが出來ないでゐる。

私の知つてゐる或る紳士の家庭では、別に大した必要もないのに女中を四五人も置いてゐる。奥さんは自分の居間に頑張つて居て女中連を頗で使つて、ちつとも身體を動かさうとしない。私が曾て此の家を訪問した時、奥さんが坊ちやんを伴れて何處かへ出かけてゐた。玄關には奥さんの下駄だけが揃へてあつて坊ちやんの靴が出してなかつた。坊ちやんは氣輕に下駄箱を開けて靴を出さうとした。すると奥さんは氣相を變へて、男でありながら何事です、それは女のする事ですと、大聲で叱り飛ばした。坊ちやんは何か罪惡でも犯したかのやうに、棒立になつて、阿母さんの顔と私の顔を等分に眺めて居た。私は本當に氣の毒で、挨拶の仕様がなかつた。なぜ自分の靴を自分で出すのが悪いであらうか。なぜ男はそんな事を

してはならぬであらうか。私には些とも奥さんの叱つた譯が分らない。今日の家庭、特に中流以上の家庭には斯んな考を有つてゐる人が尠くない。自分の身體を働かせることを非常に卑しい事と考へてゐる。自分の用を自分で辨ずることを大きな恥辱と考へてゐる。怪しからぬ事だ。

今日の社會ではもう少し勞働の神聖なことを知らなければならぬ。人は働くべく生れたものだ。活動は人間の本性である。論より證據、幼兒がどんなに活動性に富んで居るか。自分で何でもしようとする。他から手を添へると中々承知しない。持てもしない箸を持つて自分で御飯を食べようとしたり、穿けもしない下駄を穿いて其處らを歩かうとする。之れが人間の本性だ。

人間は活動する爲めに生きて居る。働くのは人の本分だ。此の尊い所を知らない者には眞の教育は出來ない。學校でいろ／＼な勞働を課するのも是れが爲めで、掃かせたり拭かせたりするのも是が爲めだ。草を取ら

せたり水を撒かせたりするのも是れが爲めだ。斯うして身體を惜まぬ人間を拵へるのが本當の教育だ。日本の教育は學校と家庭とが餘り懸離れてゐる。家庭でする事と學校でする事が一致してゐない。學校では箒を執つたり雑巾を握つたりして甲斐々々しく働いてゐる子供が家庭では靴の紐一つ結ばうとしない、自分の机の上ですら自分で整頓しようとはしない。學校で躰けられたことが皆家庭で破られてしまふ。之れでは駄目だ。

學校ですることは家庭ですることではなければならぬ。家庭ですることは學校ですることではなければならぬ。此處に教育の意味が有る。學校ですることゝ家庭ですることゝが別々になつてはならぬ。學校では能く働く子供が家庭では顔を洗ふことさへ獨りで出来ない子供が出来て居る。今日の教育は斯んな片輪の者ばかりを拵へて居る。教育ばかりではない、社會がさう出来て居る。働く者と働かせる者とが別々になつて居る。之

れは確かに今日の社會の缺陷である。これではいけない。働く者も働かせる者もみんな働かなければならぬ。働く者だけが働いて、働かせる者がいつとして居るのは間違ひである。今日の労働問題なども突詰めると斯う云ふ所によつて来る。今では労働者が金のことばかり云つて居るが、是れは労働者自身が労働の神聖なことを知らないからである。労働を賣らうと考へて居る。賃錢の多し少しと云ふことのみ頭に置いて働いて居る。成るべく短い時間働いて成べく多くの賃錢を得ようとして居る。これでは駄目だ。本當の労働は斯んなものではない。是れは人間の本性に基く頗る尊いものである。労働者には是非此の自覺が欲しいものだ。兎に角社會一般がもう少し労働の尊むべきことを知らなければならぬ。さうして皆が労働を厭はないで働く様にならなければならぬ。喜んで働く様にならなければならぬ。上流の人も、下流の人も、男も女も、大人も子供も、みんな働かなければならぬ。甲斐々々しく働かなければならぬ。社會は

斯うして進歩するものである。人間は斯うして向上するものである。新しき教育は此處に基礎を置かなければならぬ。

職業と教育

(一)

最近の教育で特色の一つと認められて居るのは教育の職業化と云ふことである。教育の職業化といふことは漸次其の色彩が濃厚になつて來たやうである。商業地には商人らしき教育を行ひ、工業地には職工らしき教育を行ふ。亞米利加のゲリーシステムの如き、兒童の爲めに工場が解放されて居ると聞いて居る。これは好いことであるか何うか。

一體斯様に教育が漸次に職業化する傾向は是れは巧利主義的の發露したものではあるまいか。無論教材を郷土化すると云ふことは必要な事である。が併し、それは職業化すると云ふことの意味ではあるまい。成可く郷土で目に觸れ耳にして居る材料を捉へて教授して理解を容易ならしめると云ふことではあるまいか。

我國の教育はあまりに職業的色彩が濃厚である。商業家になるには商業學校、工業家になるには工業學校、教師となるには師範學校に入らなければならぬし、軍人になるには幼年學校や士官學校に入らなければならぬ。斯んな工合に「チャンとそれ」の學校が出来てゐるので、其の學校を出た者は是非其の職に就かなければならぬ。一見いかにも整頓して居る様であるが、實はこれが爲めに職業の自由を甚しく束縛されて居るのである。だから若しも最初に於て一步誤れば一生不適當な職業に従事しなければならぬ事になる。醫者が商人たることも出来ないし、教師が工業家になることも出来ない。如何に教師に適當した性格を有つて居る人も、工業學

校に入れば無理に工業家らしく仕立てられて一生不適當な職業に従事しなければならぬ。而も其の撰擇が個人の自由ではなくて多くの場合父兄の指揮に従はなければならぬ。父兄は自己の職業や境遇の上から打算して子弟の職業を撰擇する。軍人は其の子弟を軍人たらしめんとして之を幼年學校へ送り、商人は其の子弟を商人たらしめんとして之を商業學校に送る。斯うして官吏の子は官吏、醫者の子は醫者、教師の子は教師といふやうに殆ど世襲的の觀を呈して居る。これは非常な間違である、不合理である。

職業の自由を與へるには何うしても社會を根本的に改造しなければならぬ。工業地であるから工業學校を設けるといふことは意味の無いことである。工業家の子弟でも教師たるに適當な人は教師たらしめるがよい、軍人たるに適當した人は軍人たらしめるがよい。職業は絶対に個人の自由でなければならぬ。此の自由を奪はれると云ふことは人として忍び難

い所で、國家としても大いなる損失である。尾崎行雄氏が其の子に飛行家たるを許して居るが如きは國民の範とすべき所である。

(二)

近頃或る縣で師範學校の入學者が少ないと云ふので、卒業生の初任給を三十圓に引上げ、尙入學生に對して各種の特典を附與した。すると、今まで豫定人員に満たなかつた應募者が頓に激増して約三倍に達したと云ふことである。之を何と見る。待遇を好くして金を澤山與ふれば人が澤山集まつて来る。これは何を物語つて居るであらう。斯んな考で集まつて來た者に三年乃至四年の教育を施して教師に拵へ上げる。これで完全な教育が望まれるであらうか。實際のところ今日の教員生活の内面觀ほど哀れなものはない。醜いものはない。全く物質欲に囚はれて金の事ばかりに齷齪して居る。まるで金の爲め物質の爲めに奴隸化してしまつて居る。

職業の自由、人心の解放、是れは目睫の急務であると思ふ。

社會が既に斯様であり、尊い教職に在る教師其の人が此の通りである。學校の教育が功利主義に傾き、實利主義に囚はれるのは當然の事である。近來地方の學校が次第に職業的色彩を帯び、徒弟學校風に化しつゝあるのは看逃すべからざる現象と謂はなければならぬ。之を教育の進歩と見之を教授の徹底と見るならば、それは大いなる誤りである。

小學教育は職業教育ではない。有ゆる職業の基礎たり根柢たるべき人間性の發揚を目的として居る。彼等をして自由に意思し自由に感じ自由に行動せしめる爲めの教育でなければならぬ。

教育は絶対に個人の自由を尊重しなければならぬ。個人の自由を束縛し個人の人格の發展を妨げるやうな教育は絶対に排斥しなければならぬ。

鑑賞と教育

今日の教育はあまりに職業的専門的に偏して居る。圖畫でも、唱歌でも、手工でも、皆そんな氣分に充ち満ちて居る。圖畫では、繪の上手な子供を拵へ上げることを理想とし、唱歌では、歌をうたふことの上手な子供を拵へ上げようとして居る。手工では、細工の上手な子供を拵へ上げようとし、書方では、字の巧く書ける子供を養はうとして居る。これは非常な間違である。圖畫は、繪の上手な子供を拵へ上げると云ふことが目的ではない。又唱歌といふ教科は、歌を上手に歌ふ子供を拵へることを目的としてゐるものではない。描くこと其のことに依つて教育しようとするのである。唱歌を歌はせると云ふことに依つて教育しようとするのである。此の眞の精神を取失つては、教育としての價値を根本から破壊することになる。

斯様な間違つた考を抱くやうになつたのは、教師のみの罪ではない。今日の教則がそんな工合に要求してゐるのである。法令其の物が然う仕向けたのである。法令が繪の上手な子供を拵へさせる様に出来てゐるし歌を上手に歌ふ子供を拵へ上げる様に要求してゐる。だから學校の教育が漸次に職業的専門的に偏して行くと云ふことは至當の事である。

今日の學校では總て技術其の物に囚はれて、人間を機械化しようとする傾きがある。試みに唱歌の教授を見てみたまへ。どんな態度で教師が子供を教へて居るか。折角感興にそゝられて愉快に歌つてゐる子供に對して、それ口を狭くせよ、咽喉をどうせよ、もう少し軽く、もう少し綺麗にと、無雜作に抑へつけてしまふ。教師の考では、樂典に合つたやうな歌ひ方をさせようと要求して居るのである。其の爲めに、折角内部から發露して來る氣分といふものを甚だしく阻碍して居る。誠に可哀相だ。

圖畫の教授でも其の通りだ。思ふがまゝに描かうとする氣分を抑へつけて何だとかかだとか、要らないことを並べ立てる。趣味も何もあつたものではない。手工の教授でも、裁縫の教授でも皆其の通りだ。何が何だか、さつぱり分らない。

一體今日の教師は繪が描けなければ圖畫の目的は達せられないと考へて居る。唱歌の出來ない者は唱歌はゼロだと考へて居る。斯う云ふ考に囚はれて居るから其の圖畫、其の唱歌といふものは全く目的が横に外れてしまつてゐる。

ほんの此の間或る處で技能科の研究會があつた。其の席上でもどの教師が言ふのを聽いても、まるで専門家を拵へるやうなことばかりを言つて居る。體操の教師が言ふことも、唱歌の教師が言ふことも、圖畫の教師が言ふことも皆同様であつた。

私はそれに我慢が出來ないで、つい斯う云ふやうな批評をして見た。繪が描けなくても、唱歌が歌へなくても、圖畫や唱歌の目的は達せられるもの

である。繪が描けなくてもよい、唱歌が歌へなくてもよい。それが圖畫唱歌の目的ではないと、斯う云ふやうなことを極端に主張して見た。みんな眼を圓くして不審がつて居た。中にはいつく反問する者もあつた。そこで私は其の人に對して、君は畫筆を執らなければ趣味が起らないと考へて居るか、唱歌を歌はなければ唱歌に對する趣味は起らないと考へて居るか、學校は専門家を拵へる處ではない、圖畫に對する理解と趣味とを有つた人間を拵へようと考へて居るのである。音樂に對して親しみを有ち同情を有つ人間を拵へることを目的としてゐるのである。斯様な考で總ての技能科が取扱はれなかつたら目的は横に外れてしまつて、君等の仕事は無味乾燥なものに流れてしまふ。今日の授業や今日の發表などは皆さうなつてゐると云ふ様なことを話して見た。

これは極端に其の通弊となつてゐる所を撃つたのであるが、つまり鑑賞させることがより以上に價值があると云ふことを述べたに過ぎないので

ある。私共は畫工を拵へるのではない。繪に理解を有ち親しみを有つ人を拵へるのである。だから場合に依つては描かせないでも宜い、見させて置けばそれで宜い。歌はせなくても宜い、聽かして置けばそれで宜い。感興が乗つて來ると歌へと云はなくても歌ひ出すのである、描けと強ひないでも筆を執つて見たくなる。それが立派な唱歌の教育だ。それが立派な圖畫の教育だ。

教育が斯様に職業化し専門化して來ると教育は趣味も濡ひも無いものになつてしまふ、血の氣の無い乾涸らびたものになつてしまふ。教師は今少しく藝術味を解しなければならぬ。藝術味を解しない教師に依つて行はれる教育は實に落窶たるものである。兎に角私はもう少し鑑賞眼のある國民が養ひたい。その爲めには教則其ものにも修正を加へなければならぬが、先づ何よりも教師の頭腦そのものを根本的に改造しなければならぬ。

性慾と教育

性慾に關する問題は、生命に關する問題と同様に人生の重大問題である。誰も一度は此の問題に觸れなければならぬ。誰も一度は戀の惱に悩まなければならぬ。戀ほど本氣なものはない。眞面目なものはない。之を正しく育て上げることが最も大切である。ところが今日の狀況では一般に此の問題を成べく避けようとして居る。腫物に觸る様な心持で居る。甚しいものになると、非常な罪惡と心得て居るものもある。さうして總ての人がわざと知らぬ振をして過ごさうとして居る。わざと知らせまいとして居る。眞に愚なことだ。

良家の子女が間違ひ易くて、料理屋の娘が一番堅實だと云ふ。是は何を物語つて居るであらうか。何でも觸れず觸はらずで過さうとする。臭い

ものには蓋をして隠さうとする。それがいけないのだ。觸るべきものは觸れなければならぬ。臭いものは開け放すが宜い。何人も當然來るべきものを知らぬ振で過ごすと云ふ教育が何にならう。

一體性慾を罪惡と見るのは殘酷である。性欲は罪惡ではない。如何にそれを果すかと云ふところに善惡が分れて來る。まあ自分自身を振反つて見るが宜い、自分にどんな經驗があるか。青春の血の沸立つた時はなかつたか。それを他のものから冷酷に扱はれて腹が立つたことはなかつたか。戀の惱を訴へるところもなく、悶えに悶えたことはなかつたか。現に若い先生達の中にはそんな苦しみの裡に悶えて居る人がありはしないか。それが本當の人間だ。

「出家とその弟子」といふ小説の中に親鸞が戀に悩んだ弟子唯圓と對談するところがある。機微なところが眞に迫つてゐる。

唯圓 私は空おそろしいやうな氣がいたします。私のために皆様の平和がみ

だれるのですもの。けれど何といふことでせう。私は永蓮様のお心をやすめることができなのです。永蓮様は涙ぐんで私をじつと見てぬらつしやいました。ひとつの大切なことを私が保証するのを待つために。けれど私は。和解とゆるしを、求めるこゝろできつくその手を握り返したゞけて、大切なことを云はずにしまひました。私にはできないのです。

親鸞 それもみなで祈つてきめなくてはならないことだ。まあ心を静かにするがよい。(間唯圓をしみじみ見る)お前はやつれたな。

唯圓 眠られぬ夜がつかましました。こゝろはいつも重荷を負ふてゐるやうでございませう。

親鸞 戀の重荷をな。だが、その重荷も佛様にお委せ申さればならぬのじや、その戀の成るとならぬとは、私事ではきまらぬものじや。

唯圓 この戀のかなはぬことがありませうか。この私のまごゝろが、いえ、私はそのやうなとは考へられませぬ。あめつちが崩れても二人の戀はかはるまいと、私たちは、いくたび、かく誓つたでせう。幾千代かけてかはるまいとな。明日をも知らない身をもつて——(熱誠こめて)人間は誓ふことはできないのだよ。(庭を指して)この満開の櫻の花

が、夜はの嵐に散らないことを誰が保証することができよう？ また、佛様のみゆるしなくば、一ひらの花びらも地に落ちることはないのだ。三界の中に、かつ起り、かつ亡びる一切の出来事はみな佛様の知るしめし給ふのだ。戀でもその通りじや。多くの男女の戀の内、ただゆるされた戀のみが成就するのじや、その他の人々はみな失戀の苦しいさかづきをのむのじや。

唯圓 (おのゝく)それはあまりにおそろしい。では私の戀はどうなるのでせうなるかも知れぬ、ならぬかも知れぬ。先きのことは人間にはわからぬのじや。

親鸞 ならさず置きものか。いのちにかけても。數知れぬ戀する人々が昔から、そう誓つた。そして運命に向つてか弱いかいなをふるつた。そして地に仆された多くのふしあはせな人々がそのやうにして墓場に眠つてゐる。

唯圓 たすけて下さい。私はお前のために祈る。お前の戀のまどかなれかしと。これ以上のこ

とは人間の領分を越えるのだ。お前もたゞ祈れ。縁あらば二人を結び給へとな。決して誓つてはならない。それは佛の領分を侵すおそろし

唯圓

い間違ひだ。けれど間違ひもまた、報ひから免れることは出来ないのだ。若し縁が無かつたら？

親鸞

結ばれることはできない。

唯圓

その様なことは考へられません。私は堪へられません。不合理な氣がいたします。

親鸞

佛様の知慧でそれはよしと見られたら合理的なのだよ。つくられたものは、つくり主の計畫のなかに自分の運命を見出さねばならぬのだ。その心をまっすといふのだ。歸依といふのだ。陶器師は土くれをもつて一の土偶を美しく、一の土偶を醜くつくらないのであらうか？

唯圓

人間のれがひと運命とは互に見知らぬ人のやうに、無關係なのでせうか。いや、それは多くの場合寧ろ暴君と犠牲者とのやうな殘酷な關係なのでせうか。「かくありたし」との希望を「かく定められてゐる」との運命が蹂躪してしまふのでせうか。どの様な純な、人間らしい、願ひでも。

親鸞

其處に祈りがある。願ひとさだめとを内面的に繋ぐものは祈りだよ。祈りは運命を呼びさますのだ。運命を創り出すと云つてもいい。法藏比丘の超世の祈りは地獄に審判されてゐた人間の運命を極樂に決定せられた運命にかへたではないか。「佛様み心あらば二人を結び給へ」との

唯圓

（飛び上る）私は祈ります。私は一心こめて祈ります。祈りて運命を呼びさします。

親鸞

祈りの内には深い實踐的の心持ちがある。いや實行の一ぱん深いものが祈禱だよ。戀のために祈るとは、眞實に戀をすることに外ならない。お前は今何よりもお前の祈禱を聖いものにしなくてはならない。云ひかへればお前の戀を佛の御心に適ふやうに淨めなくてはならない。

唯圓

あゝ私は佛のみ心に適ふ、聖い戀をしたい。お師匠様どのやうな戀が聖い戀で御座いますか。

親鸞

聖い戀とは佛の子にゆるされた戀のことだ。一切のものに呪ひをおくらない戀のことだ。佛様を初とし戀人へも戀人以外の人にも、また自分自身へも。

唯圓

（一生懸命に傾聴してゐる。時々不安な表情をする）

親鸞

（嚴肅に）佛様に呪を送らぬのに二つある。一つは誓はぬこと。他の一つは、たとひ戀は成らずとも、佛様を怨みぬ事。

唯圓

つまり佛様に委せることとてございますな。

親鸞

その通りだ。戀人以外の人に呪ひをおくらぬとは、戀人を愛すが故に、他人を損ふやうにならないとだ。戀の中には此の我儘がある。これが最も戀を汚すのだ。今度の騒ぎを起したのは此の我儘が種になつたのだ。お前は戀のために私を欺し、先輩や明輩衆に勤めを缺いた。戀位排外的になりがちなものはないからな。また多くの戀する人は他人を排することによつて、二人の間を密接にせうとするものだ。「彼の様な人は嫌です」と云ふと、あなたは好きですといふことを、ひそかにけれど一層よく表現することになるのだ。そこに甘味があるからな。だが、罪なことだよ。考へてご覽、他人を呪ふことと、自分をたのしくせうとするのではないか。

唯圓

私はあの人の事で胸が一ぱいになつて、他の人のよを考へる餘裕がないのです。また、それでなくては、愛してゐるやうな氣がしません。

親鸞

其處に戀の間違ひがあるのだ。愛の働きには無限性がある。愛は百人を受すれば、百分されるやうな量的なものではない。甲を愛してゐるから、乙を愛されないといふのは眞の愛ではない。法藏比丘の水の中、火の中での幾萬劫の御苦勞はあまれく、衆生の一人、一人への愛のためだつたのだ。聖なる戀は、他人を受することによつて深くなるやうなものでな

くてはならない。逢つて下さいと、戀人が云つて来る。自分も飛んで行

きたい程に逢ひたい。けれど、今日は、朋輩が病氣で、以てゐて、自分が看護してやらねばならない時にはどうするか？ 朋輩をほつて置いて夢中になつて、遇ひに行くのが普通の戀だ。その時その朋輩を看護するため逢ひたさを忍び、また逢はうと云つて来た、戀人も、では今日来ないで看護してあげて下さいと云つて、その忍耐と犠牲とによつて、自分等の戀はより尊いものになつたと思ひ、後では淋さに堪へかねて、泣いて戀人のために祈るやうならば聖なる戀と云つてもいい。そのとき逢はなかつたことは、戀を薄いものにして、却つて強いたしかなものにするだらう。それが祝福といふものだ。

唯圓

私のして来たことは、聖い戀の反對でした。自分のたのしさのために、他人を傷けてゐました。

親鸞

自分自身に呪ひをおくらないとは、自分の魂の安息を亂さないことだ。これが、最も悪いことで、そして、最も氣のつかないことなのだ。お前は眠れないね。お前の心はうる／＼して落ちつかないね。お前は瘦せて色目も青ざめてゐる。散亂した相じや。お前は自分を惨めとは思はないか。(あはれむやうに唯圓を見る)

唯圓

(涙を落す) 淺ましいときへ思ひます。私は宿無犬のやうにうる／＼してゐます。(自分を嘲る様に) 今日、松の家のお内儀に、泥棒猫だとのゝしられ

親鸞

ました。私の小指ほどの價もないあの鬼婆に！
そのやうな言葉使ひをお恥ぢなさい。お前はまつたく亂れてゐる。自分を尊敬し、自分の魂の品位を保たなくては聖なる戀ではない。我と我が身をかきむしるのは、此の世乍らの畜生道だ。柔和忍辱の相が自然に備はるべき佛の子が、まるで狂亂の形じや。

唯圓

おい。私はどうしませう。私は自分の影を見失ひさうです。(動亂する) 待て、唯圓。も一つ一番本質的なのが残つてゐる。お前はお前の戀人に呪ひをおくつてはならない。

唯圓

私が彼の女を呪ふのですつて。いのちにかけても慕ふてゐる戀人を？
そうだ。よくお聴き。唯圓。其處に戀と愛との區別がある。その區別

親鸞

が見える様になつたのは、私の苦しい經驗からだ。戀の渦巻きを中心に立つてゐる今のお前には、戀それ自身の實相が見えないのだ。戀のなかに、呪ひが含まれてゐるのだ。それは戀人の運命を幸福にすることを目的としない。否寧ろ、時として戀人を犠牲にする私の感情が含まれてゐるものだ。その感情は惜みと背を合せてゐる際どいものだ。戀人同志

は互ひに呪ひの息をかけて合ひながら、互ひに祝してゐると思つてゐることがあるのだ。戀人を殺すものもあるのだ。無理に死を強ふるものさへある。それを皆愛の名によつてするのだ。愛は相手の運命を興味とする。戀は相手^二の運命をしあはせにするとは限らない。かへでは、お前をしあはせにしたか。お前は亂れて苦しんでゐるな。そしてお前はかへてをしあはせにしたか？

唯圓

(ある光景を思ひ浮べる) おい。あはれなかへてさん。

親鸞

戀は互ひの運命を傷けないことはまれなのだ。戀が罪になるのはそのためだ。聖なる戀は戀人を隣人として愛せねばならない。慈悲で憐れまればならない。佛様が衆生を見給ふやうな眼で戀人に對せねばならない。自分のものと思はずに、一人の佛様の子として、赤の他人として！

唯圓

(叫ぶ) 出来ません。とても私には出来ません。

親鸞

そうだ。できないのだ。けれどもしなくてはならないのだ！
(眩暈を感じる) あい。(額に手をあてる) 互ひに傷け合ひながらも、慕はずにはゐられないとは！

親鸞

それが人間の戀なのだ。
唯圓 (獨自の如く) あい。一體どうすればいいのだ。

親鸞 (しづかに)南無阿彌陀佛だよ。(眼をつむる)やはり祈るほかはないのだよ。
お佛様、私があの子を傷けませんやうに。彼の女を愛するが故にとて、外
の人々を損ひませんやうに。わたし自らを亂しませんやうに――

唯圓 (手を合せる)縁あらば二人を結びたまへ。

親鸞 おい。そのやうに祈つてくれ。そして心をつくしてその祈りを踐み行
はうと心がけよ。出来るだけ――後は佛様が助けて下さるだらう。

唯圓 (沈黙段々感動高まり、終にすゝり泣く)

親鸞 お慈悲深い佛様に何事も委せてまつれ。何もかも知つてゐらつしや
るのだよ。お前の心の切なさも、悲しさもな。(祈る)おい、佛様、まどかなお
はりを、あはれなものの戀のために――

戀を知らぬ人間は血の氣のない人間だ。乾涸らびた人間だ。花に色のな
いやうなもので、淋しいものだ。「やははだのあつき血潮にふれもみでさび
しからずやみちをとくきみ」本當だ。實際だ。

凡て知らせないほど危険なものはない。抑へつけるほど恐ろしいもの
はない。労働問題などで最も危険なのは此處だ。危険であればあるほど

知らせなければならぬ。間違ひ易ければ易いほど正しく導くことが必要
である。性慾を罪惡と思はせてはならぬ。正しく理解させなければなら
ぬ。純なものに仕上げなければならぬ。美しい氣高いものに拵へ上げな
ければならぬ。人生は斯様に拵へられて居る。教育は斯様な尊い一面を
度外視することは出来ない。否或る時期に於ては是が德育の基調を成さ
なければならぬ場合がある。

それでは何うして知らせるか、何うして導くか。それは別の問題である。
知らせようと思はなくとも、知らせなければならぬ場合が出来て来る。導
かなければならぬ時期がやつて来る。是は何うすることも出来ない。其
處に教育の尊いところがある。其處に教育の有難いところがある。覺め
よ教育者。さうして汝の教育に意義あらしめよ。

學用品問題

學用品の問題も小さい問題ではない。全國幾百萬の兒童が日々消費する學用品の高は莫大なものに相違ない。さうして是れは米などと同じ様に、どうしても無くならない日用品である。

私は現に三人の子供を學校に通はして居るが、それ等に毎日のやうに、やれ筆、やれ雜記帳とせがまれる。三人の子が交るゝに請求する高は決して尠くない。此の間買つたではないか、少しは節約せよと云つても、先生が買つて來いと仰しやつたからと言へば、無理にも言へない。全く遺切れない。

其の上物價は日にく騰貴する。品物は段々贅澤になつて行く。實際子供の使つてゐる學用品を調べて見るがよい。随分贅澤なものを使つて

ゐる。都會地になると五六年位の兒童は大概萬年筆の一本位は持つて居る。贅澤をするなと云つても、目の前に綺麗なものを見せつけられると矢張り其の方に氣を奪はれるのは無理からぬことである。斯うして段々と學用品が贅澤になつて行く。これは兒童の訓練上から見ても決して捨置くべき問題ではない。

斯様な點からして私は此の問題は決して小さい問題ではないと思ふ。寧ろ或る點から觀ると米の問題よりも大きな問題かも知れぬと思ふ。ところが、米の問題に對しては食糧問題とか節米の宣傳とか云つて騒ぎ立てて居るが此の學用品問題には割合に冷淡であるのは何うした事であらう。私は教科書などを國營にするよりも、寧ろ此の學用品の如き當然國營にしなければならぬものであると信じて居る。

進級制の革新

(一)

進級制に二つある。一つは年齢進級法で、今一つは學力進級法である。年齢進級法は年齢に依つて進級する方法で、如何に學力が優秀でも相當の年齢に達しなければ進級することが出来ないものである。學力進級法は學力に依つて進級する方法で、年齢は少くとも學力さへ相當の程度に達して居ればどい、進級させる方法である。今日の學校では此の二つが混淆して行はれて居る。どんなに學力は優秀でも越級することが出来ない、それかと思ふと、學力が不十分だと云ふと落第させられる。何が何だかさつぱり分らない。

今日の學校は優等兒童も劣等兒童もどちらも苦しんで居る。優等兒童は分りきつたことを諄々と繰返されて非常に苦痛を感じて居る。學校は人を愚にすると嘲つた人があるが本當だ。

劣等兒童も亦自分の力不相應な仕事を課せられて一時間中何もしないで過して居る。甚しいものになると尋常小學を卒業しても完全に平假名さへ書き得ない者もある。斯様に優劣の混淆した多數の兒童を教へるには勢ひ其の中間にある中等兒童を標準にしなければならぬ。中等兒童は平凡な兒童である。可もなければ不可もない、煮えきらぬ兒童である。今日の學校の平凡で煮えきらぬのも無理からぬことである。學校教育とは斯んなものであらうか。學校とは斯う云ふ性質のものであらうか。

一體學校は優者にも劣者にもそれ相當の教育の機會が與へられなければならぬ。力の優つたものには其の力相應に學習の機會を附與せられなければならぬ。さうして皆の兒童が悉く全力を傾倒して學習し得る様に

ならなければならぬ。是が本當の教育である。是が本當の學校である。

(二)

我國の教育は非常に進歩して居るやうであるが、それは内面ではなくて外形だけのことである。義務教育で強制的に引張り出して、六十人も七十人も一部屋に押込んで、ほんの間に合せの教育を行つて居る。教育の普及は事實かも知れないが、徹底の如何は少々怪しいではないか。只外面的に普及したと云ふことだけを喜ぶならば兎も角、苟くも其の徹底を期するならば大いに改造を加へなければならぬ。

今日の社會は學校教育の進歩を就學の歩合や出席歩合で計らうとして居る。それでいやがるものを無理に引張り出さうとする。さうして其の外形を飾らうとする。是ではいけない。教育は普及と共に其の徹底を期しなければならぬ。教育の徹底と云ふことから云ふと昔の教育の方が遙

に優つて居る。學びたいと思ふものが教を受けたいと思ふ先生の所に集つて一心に研究する。才能のあるものは思ふが儘に其の才能を發揮してどしどし進歩する。だから僅か十四五才で最早天下に名を知られた偉人が尠くなかつた。維新の大業に當つたものは悉く二十歳前後の青年であつた。

昔は是れだけの偉人傑士を出して居るのに、獨り現代のみがそれを有しないと云ふのは何かの缺陷があると謂はなければならぬ。社會の罪か、教育の罪か。

露骨に云ふと、今日の教育制度は間違つて居る。小學校でも中等學校でも、ちやんと一定の年齢の制限を設けて入學させたり、進級させたりして居る。どんな穎才でも其の制限を破ることが出来ない、滿六歳に達しなければ、一日足らなくても入學することが出来ない。尋常小學校で六年間の教育を受けた者でなければ中學に入ることが出来ない。此の頃やつと五年か

ら優秀な者だけを入學させることを許したが、それも何とかかとか苦情をつけて、實際に許して居る處は至つて稀である。是ではいけない。どうしても此處に大いなる改造を加へて根本的の革新を圖らなければならぬ。一國の興隆は穎才の力に待たなければならぬ。我國は今切にそれを求めて居る。各種の方面に人才の缺乏を感じて居る。斯様な時勢に穎才を化して凡才と成す様な現代の教育は絶対に許容することが出来ない。穎才を撲滅する様な教育制度は一日も早く撤廢しなければならぬ。

婦人問題と女子の教育

(一)

數日前のことである。或る會で婦人問題に就いての私の意見を述べた

ことがある。其の際に話が少々脱線して、女子の無自覺なことや、傳統に囚はれてゐることや、因襲の奴となつてゐることなどに就いて手酷く攻撃を加へた。さうして最後に、今後の婦人は人生の連帶責任者として男子と共に文化運動に關はらなければならぬと云ふことを述べて結論とした。すると、其の翌日、或る女教師から匿名で次の様な手紙が來た。

先生

先生は昨日しきりに「女は馬鹿だ、馬鹿だ」と私共女を侮られました。

どんな物差ではかれればそれ程女は馬鹿なのでせう。人間といふ博大な意味から考へれば、男だつてそんなに不馬鹿なことも無ささうぢやありませんか。成程、日本の女は男に較べたときに、ちよいと位のろい様ですれ、少し位ほんくらかも知れませんが、低能兒の様かも知れません。けれども先生、初めからそんなだつたでせうか……

私は思ふのでございます。

女はほんくらにならなければ仕方がなかつたのだと。

それは女に取りまして大事な大事な男がほんくらな女であれと求めたからな

のです。

馬鹿だぼんくらだと侮れる女がなければ寂しいといふ男も亦お目出たではありませんか。五十歩百歩です。

先生

女はどうしても男の様な立派な頭腦の持主にはなれないものなんでせうか？

否、否

女も男も同じ様に正しい眞實な人間になつて、さうして互に人生の連帶責任者として文化の働きにいそしまなければならぬ、時が「必要」が迫つてゐるではございませんでせうか。

先生は何故に女は詰らない馬鹿だと呼ばれる前に、女を馬鹿に拵へ上げた男はより馬鹿だと叫んで下さいませんでしたか。

女をこんな役に立たなくしてしまつたお國の舊來の制度改革の急を叫んで頂けなかつたでせうか。

馬鹿にされてしまふ習慣、いやらしい傳統因襲の中に苛まれ虐げられて今日に至つた女の上に今少しく御同情下さらないことを私は慥みに存じます。

今日と雖も尙ほ舊式な女の典型を強ひようとする此の地方の固陋老癡な教育

家たち、否な總ての女たちの耳朶に警鐘を打つて打つけて彼れの鈍眼を刺がせて下さらなかつたことを慥らなく思ひます。

男が女に與へるに、米と布と白粉と、只それ切りだつたのです。

女が男から與へられるに、心の米、心の絹、心の白粉だつたならば、女は、又男も、どんなに幸福になれたこととせう。

女が詰らないと云ふことを幾度も繰返されたのを、私は先生のやうな確かな人の話であればあるほど一時も黙して居ることが出来ませんでしたので、友達にも其の事を話しました。失禮なことを書きましたが、それだけ私は先生のお話を尊重し且つ共鳴して拜聴したと云ふことに依つて無禮をお免し下さいませ。

成程私の所論は餘りに女子を罵倒し過ぎたかも知れぬ。併し私は矢張さう信じて居る。この匿名の女先生にしても、自ら堂々と所信を述べるだけの勇氣が無くて、わざと自分の名を匿して憤怒の情を漏らして居るではないか。これだからいけないと言ふのだ。なぜ主張すべき所があつたら堂々と主張しないか。面と向つてはさも柔順らしく猫を被つて、蔭ではぶつゝ、こぼしてゐる。それが悪いのだ。女の最も缺けてゐる所は正々堂々

と主張すべき所を主張し争ふべき所を争ふことが出来ない所にある。他の力を藉らなければ自己の所信を貫徹させることが出来ないと考へてゐる。其のさもしい考を取去ることが出来なければ眞の自覺は覺束ない。「女を斯んな役に立たなくしてしまつたお國の舊來の制度改革の急を叫んで頂けなかつたのでせうか。馬鹿にされてしまふ習慣、いやらしい傳統因襲の中に苛まれ虐げられて今日に至つた女の上に今少しく御同情下さらないことを私は憾みに存じます」と。然り。舊來の制度は是非改革しなければならぬ。女を虐げた因襲は一日も早く打破しなければならぬ。私共は現在の女子の境遇に大いに同情してゐる。併し制度の改革や因襲の打破は男子の領分に屬するものか女子の領分に屬するものか。

女子の爲めの運動は女子自ら解決しなければならぬ。男子の力に頼つて其の要求を貫徹しようといふ其の態度が甚だ面白くない。將來の女子は先づ斯様な因襲を打破して、自己自身の力に信頼して自己を處置するだけの力を養はなければならぬ。でなければ、女も男も同じ様に正しい眞實な人間になつて、さうして互に人生の連帶責任者として文化の働きにいそしむことは覺束ない次第である。

(二)

從來の女子教育には大いなる缺陷がある。賢母良妻主義の如き、男子に都合の好い主義であつて女子に取つては必ずしも幸福とは思はれない。女子に對して賢母たり良妻たるべく教育すると云ふことは決して悪いことではあるまい。併し總ての女を賢母良妻主義で教育するといふことが果して當を得たものであるか何うか。まだ一人前の人間にもなつて居ない兒童生徒に賢母良妻たれと教へる教育が普通教育として許容することが出来るであらうか。少し極端な言方かも知れぬが、今の所謂賢母良妻主義なるものは女を愚にするものである、女を無自覺ならしめるものであ

る。己れを忘れ己れを殺して男子に従へと教へるものである。無論現代の社會ではそれが女の幸福かも知れぬ。併し女も人である。眠つてゐる目は何時か覺めなければならぬ。眠つてゐる自我が目を開けて自己を眺める様になると自己の現状に慊らなく思つて、其處に解放が叫ばれ破壊が行はれるのは當然の事である。イブセンのノラが親や夫に人形として扱はれて居た間は何の事はなかつたのであるが、一度覺醒して其の目が覺めると再び元の人形ではない。自覺したノラは、女は男の所有する女ではない、女は女の女であると云ふことに氣が着いた。さあ斯うなるともう現狀に安んずることが出来ないで、是迄の風俗も道德も宗教も皆破壊してしまはなければならぬ事になつて來る。

ノラ

私は今まで大變不法な取扱を受けてゐました。第一は父からですし、其の次は貴方からですよ。

ヘルマー

何を云ふ？ お前のお父さんと私から不法な取扱をされたと？——あれほど深くお前を愛してゐた私達に？

ノラ

貴方は決して私を愛して居らつしやつたのではありませぬ。愛するといふことを慰みにしてお居てなかつたのです。

ヘルマー

何うしたんだノラ、何といふ言ひ様だ？

ノラ

いゝえ、さうですよ、貴方、私がまだ父の家においた頃は父が色々自分考へて話して呉れました、私は其の通りを守つてゐました。假令違つた考へはあつても、父が好みませぬから自然隠すやうになりました。で、父は私を人形子だと云ひまして、丁度私が人形と遊ぶやうに私と遊んでゐたのですよ。さうして居るうちに貴方の家へ住居を替へたのです。

ヘルマー

結婚したのを、何といふ物の言ひ様だ。

ノラ

さうです。私は父の手から貴方の手に移りました。すると此處でも貴方が自分の何もかも好みで決めておしまひなすつて、私と貴方と同じ好みになつてしまひました——其の頃の事を振返つて見ると私はまるで手から口へ入れる乞食のやうな生活をして居たと思ひます。私は貴方の前で藝當をしてゐたのですよ、ねえ。——そんな風で、貴方と父として私に害を加へなすつたのです。私の一生が無駄に費えたのは貴方の罪ですよ。

ヘルマー

何うしたんだ、ノラ。随分不條理な思知らずの言方ぢやないか。お前は此の家へ来て幸福だつたとは思はないか。

ノラ

唯愉快だつた丈です。貴方に何時も親切にして頂きましたけれど家は子供の遊び部屋でしかなくつたのですよ。其の家で私は貴方の人形妻になりました。丁度父の家で人形になつて居たと同じことです。それから子供がまた順に私の人形になりました。さうして私が子供と一緒に遊んでやれば喜ぶのと同じ様に、貴方が私と遊んで下されば面白かつたに違ひありません。それが私達の結婚であつたのです。

自分は夫に愛されて居るが、それは人として愛されて居るのではなくて人形として愛されて居るのである。自分は本當に過つて居た、全く夢を見て居た。自分は人の妻だの母だのと、それはみんな夢だつた。自分は先づ自分を愛することを知らなければならぬ、自分の信ずる道を行かなければならぬと考へた。

ヘルマー

それで家も夫も子供も振り棄てようなんて、お前は世間の思はくと

ノラ

いふものを考へない。そんな事は構つて居られませぬ。私は唯しようと思ふことは是非しなくちやならないと思つて居るばかりです。

ヘルマー

言語道断だ。お前は全體そんな風にしてお前の一番神聖な義務を棄てることが出来ますか。

ノラ

私の一番神聖な義務といふのは何でせう？

ヘルマー

それを私に尋ねるのかい。夫に對し子供に對するお前の義務さ。

ノラ

私には同じ様な神聖な義務が外に有ります。

ヘルマー

そんな事が有り得ようか。どんな義務と云ふのだ。

ノラ

私自身に對する義務です。

ヘルマー

何よりか第一にお前は妻であり母である。

ノラ

それは私もう信じませんの。何よりか第一に私は人間です。丁度貴方と同じことですよ——少くとも是れからさうならうとして居る所です。無論世間の人は大抵貴方に同意するでせう、書物の中にも書いて居るでせう。けれども、是れからもう私は多數の人の言ふことや書物の中にあることで満足しては居られません。自身で何でも考へ究めて明らかにせぬ限りは居られませぬ。

斯うしてノラは愛兒を棄て夫に別れて、所謂女としての女の生活に入るのである。

現在の日本の女はノラの様目覺めなければならぬ時期に到達してゐる、否な既に目覺めつゝあるのである。目覺めつゝある女が如何に煩悶し如何に苦惱して居るかは前に擧げた無名の手紙でも明かである。將來の女子教育は、先づ女を人として教育することを忘れてはならぬ。人を人として教育すると云ふことは男も女も變りは無い。殊に普通教育に於ては此の考が必要である。

女らしくと云ふ前に人らしくと云ふことを要求しなければならぬ。人らしく教育して、然る後に女らしく母らしく教育することが出来るのである。此の意味からして今日の教育は確に大なる改造を加へなければならぬ。

(三)

女子教育を大いに盛にしなければならぬと云ふことは各種の方面から叫ばるゝに至つた。現に女子の爲めに高等教育機關を設けたり、更に進んでは大學解放までも行ふことになつた。併しそれは外觀で、内容は頗る振はない。近い例は女學校である。今日の女學校が何う云ふ現状に在るか。廢物に近い硬化した教師や、婚期を失したヒステリックな女教師などで、まるで物になつて居ないではないか。さうして所謂賢母良妻主義に依つて教育せられて居る。時代の進歩に頓着なく、依然として男子の手足纏ひたれと教へて居る。迂遠も實に甚だしい。

現在の女子はそんな事では満足して居ない。彼等はどんな書物を読んで居るか、どんな思想を有つて居るか。女學校の先生達は全く無自覺である。これでは堪らない。

女子は國民の半數を占めてゐる。國家は單に男子の力のみによつて發達するものではない。女子は男子と共に國運の發展に裨益しなければならぬ重大な責務を有つて居る。家庭に入つては母となり妻となるの資格を備へると共に、獨立の人として社會の各方面に貢獻し得る女子を必要とする。

國民に獨立思想の無いのは女子に獨立思想が缺けてゐるからである。マア見給へ。西洋の婦人があの大道を堂々と濶歩してゐるあの姿を。羨ましいではないか。若しもあれが日本の婦人であつたら何うだらう。逆も萬里の異域に在つて一人である様に街路を散歩するなどいふことは望み得られないことであらう。萬里の異域どころではない。一足自分の家を踏出すともう獨り歩きが出来ないといふ現状ではないか。斯んな事で何うなる。斯んな女の手には養はれる國民が、意氣地無しで、世間知らずの、退歩的になつて行くのは當り前のことである。

我國の女子は人格思想の發達がまだ、不十分である。人格者としての價值と權威とを具へてゐない。今後の女子教育は何うしても此の方面に大いなる力を拂つて女子を先づ人として教育することが必要である。先づ人としての教育を施して獨立の人格者としての陶冶を行はなければならぬ。是れが現下の最大急務である、刻下の最重要事である。

掃除問題と訓育

香川縣の鹿子木といふ知事さんが小學兒童の掃除を禁止するといふ訓令を出してから掃除問題が一時全國教育界の問題となつて論究せらるゝ様になつた。掃除を廢止せよといふ論者は、掃除は衛生上有害である、塵埃の舞ひ上る中で拭いたり掃いたりするのは保健の上から觀て甚だ宜しくない、某博士の調査に依ると一立方寸の中に細菌が何程ある、何々博士の統

計ではそれが更に甚だしい、是れでは何うしても絶対に掃除を廢止してしまはなければならぬと極論する。すると又一方では掃除は兒童訓育の上からして有力な作業である、吾々が兒童に掃除を課するのは學校の加勞をさせる意味ではなくて其處に大いなる價值を認めて居る、全廢論者は塵が多いから保健の上に有害であると論じて居るが、そんなことを云つて居ては家の外では一寸も出歩くことが出來ないではないか、街路に立上る砂埃は逆も教室などの比ではない、殊に自宅では日に幾度か拭いたり、掃いたり、はたいたりして居る、其の度毎にどれだけ塵埃を吸込んで居るであらう、細菌調査などは醫者の杞憂に過ぎないと頑張る。

此の二つの主張はどちらにも道理が有るやうであるが、併し、實は孰れも甚だ不徹底で煮え切らない議論であると思ふ。塵埃が舞上るからいけないとか、塵埃の中に細菌があるからいけないとか云ふ意見は掃除問題其ものに觸れた意見ではない。塵埃が立つて悪ければ立たない様に工夫すれば

ば宜いではないか。細菌を吸込むのが有害であるなら吸込まない様にマスクでも懸けさせたら宜いではないか。掃除問題として吾々が論じようとするのはそんな事ではない。吾々が論じようとするのは訓育の上にとれだけの價值が有るかと云ふことである。無論可否を論究する場合には保健の上からもなめなければならぬ、細菌の調査などにも顧慮しなければならぬまい。併し先づ第一に研究して見なければならぬものは掃除其もの、研究でなければならぬ。掃除其ものが兒童の訓育の上から觀てどれだけの價值が有るであらうか。若しもそれが一部の論者の唱へる様に大いなる價值の有るものであるならば少々の故障位は犠牲にしても斷行しなければならぬ。が併し、單に訓育の上から觀ても價值が有ると云ふ位に止まるならば、危険を冒して迄も行はなければならぬ筈は無い。問題は此處である、吾が論究したい處は此處である。

總て研究は枝葉の問題に囚はれてはならぬ。研究が枝葉に囚はれて其

根本に觸れないと、不徹底で煮え切らないと云ふ誘りは免れない。現に京都の或る學校では父兄が協議して學校に掃除全廢を迫つた。其の理由が面白い。吾々の家では子供に箒を持たせたことが無い、拭いたり掃いたりすることは奉公人の仕事である、學校に手が足りないならば小使を増員しても宜しい、兎に角子供に掃除をさせる事だけは是非廢めて貰ひたいと申込んださうだ。學校からは掃除が訓育の上から觀て價值の有ることを懇々と説いて聞かせたさうであるが父兄は何うしても肯入れない。成程、掃除は訓育の上から觀て價值の無いこともあるまい。併し、縱し價值が有るとしても、是非掃除をさせなければならぬと云ふ理由は認めない。訓育のためならば、掃除をさせないでも他にそれに代はる適當なものが有る筈である。吾々は學校の意見には何うしても同意することが出來ないと云つて承知しなかつたさうである。

承知しなかつた方が頑迷なのか、説いて聞かせる方が不徹底なのか。私

は爰で掃除問題の可否を論じようとは思はない。唯教師が是等の問題にぶつかつた場合に今少しく根柢のある徹底した見識が望ましい。さうして世論に迷はず堂々と自己の所信を遂行し得るだけの度胸が望ましい。妥協氣分に富んだ、不徹底な、煮え切らない態度は現在の教育界の最も忌むべき通弊の一つである。之は獨り掃除問題のみに限つた問題ではない。教育の總てに涉つた問題で、教育の實際問題に對しては總て斯様な態度にあらなければならぬ。教師の見識と自信の必要なことは教育の全般に涉つて最も必要である。

不良兒童と教育

不良少年は現代の社會が產出した悲しむべき產物の一つである。無論昔でも全然無かつたとは云はない。併し今日の所謂不良少年とは餘程違

つてゐる。昔の児童の悪戯と云ふものは頗る淡泊なもので、引捕へて眞正面から叱り飛ばすことの出来ない様なあつきりとしたものであつた。ところが、今日の不良少年はそんなものではない。

今日の社會は裏面に幾多の恐るべき暗黒面があつて、その暗黒面から魔の手が差出て善良なる子女を誘惑して居る。不良少年の不良行爲は吾々の想像以上に恐るべきものである。而もこの誘惑の手は吾々の學校にも間斷なく差出て来て、折角學校で心血を濺いで教育した其の訓育も一たび校門を出れば其の魔の手に誘惑されて全然根柢から破壊されてしまつて居る。商店の前に立つては店員の眼を窺んで搔浚ひをやり、菓子屋に這入つては食逃げをやり、甚だしいものになると、人のカクシや袂を探つて掏摸も及ばないやうな犯罪行爲を敢てする者も出来て來た。實に悲しむべき事である。

私は或る學校で斯んなことを聞いた。學校で児童の所持品が無くなることは珍しい事ではない、特に正月の前後が甚だしい。新しい下駄などを穿いて来て下駄箱に入れて置くと、毎日數名の児童が無くなりました取られましたと訴へて來る。これには學校も困つてゐると。

私は其の話を聞いて、洵に恐るべき事であると考へた。一寸考へると此の事は何でもない事のやうであるが、これには由々敷い問題が含まれてゐると思ふ。下駄などは他の學用品や或は飲食物のやうに直ぐに消費したり或は食つてしまふやうなものではない。それを穿いて歸つて内でも使ふ、所謂日用品である。自分の下駄でない新しい下駄を穿いて歸れば内の人も直ぐに氣が着く筈である。それを黙つて見て居るといふとは或る意味からすると親も共犯者であると認めるところが出来る。つまり親がさう云ふ犯罪をしろと勸めて居ると言つても差支ないと思ふ。斯う云ふ有様であるからして、子供の不良行爲と云ふものは段々大きくなる筈である。一體今日の社會は社會其のものが濁つて居る。斯う云ふ濁つた社會に育つ

子供が濁つた生活を營むのは當り前の事である。これは國家社會の大いなる缺陷であると謂はなければならぬ。

少年の不良行爲をどうして訓化するか——。此の問題は頗る重要な問題である。或る學校では其の取締の爲めに特に警察の手を籍つて、斯んな悪い事をするを斯う云ふ恐ろしい目に遭はなければならぬ、斯んな怖ろしい處に這入らなければならぬと威しつけて、それを直させようと力めたさうである。併しそれは何の甲斐も無かつたさうである。尤もな事である。そんな姑息なことでは駄目である。斯んな消極的な方法では何にもならぬ。今少し積極的に本當にさう云ふ不良行爲を直させる工夫をしなければならぬ。愛の力だ。愛の力を藉らなければ逆もさう云ふ兒童を感化することは覺束ない。

私の知つて居る或る一刑事の話に、不良少年を捕まへて色々調べて見ると、其少年がどうか學校に知らして下さるな。學校に知らせて下さらな

かつたら何でも言ひますと言つたさうである。あゝいふ悪い子供でも學校の先生だけは餘程恐れて居るらしいと云ふことを話して居た。私は此の話を聞いて、斯んな悪い子供でも、斯んな恐ろしい事をする子供でも、まだ可愛い所があると思つた。

彼等ははまだ、學校を尊い處と思つて居る、先生を非常に尊いものとして居る。この尊い學校とこの信用されて居る教師が熱誠を籠めて、所謂慈愛の眼で彼等を眺め、恩愛の腕で彼等を抱き上げることが出来たら、屹度彼等を感化することが出来るであらうと思ふ。

或る不良兒童の感化事業に關はつてゐる人の話に、不良兒童は多くは家庭の境遇に同情すべきものがある。或は繼母の手に育つたとか、所謂連子で繼父の手に養はれて居るとか、或は兩親を失つた孤兒であるとか、不正結婚によつて出来た私生兒であるとか、夫や子を棄て、他の男と墮落をした様ないだらな母を持つて居るとか云ふやうな、多くは最も憫むべき境遇

に在るさうである。斯う云ふ境遇が彼等を驅つて斯う云ふ恐るべき犯罪行爲を敢てするやうな不幸な境遇に陥れるのである。斯う云ふ境遇に在る兒童が、誘惑の手に操られて知らず識らずの間に恐るべき犯罪行爲を敢てする様なことに立至るのは寧ろ當然の事と謂はなければならぬ。斯んな兒童には何うしても趣味と慰安を與へなければならぬ。缺乏してゐる愛の力を藉らなければならぬ。さうして彼等を冷たい落莫たる境遇から救ひ出さなければならぬ。

社會は容器である。兒童は其の容器の中に育つてゐる。水が容器の如何に依つて何うでもなる様に、兒童は社會の如何に依つて何うでもなるものである。此の點からして今日の社會組織と云ふものゝ上に大いなる改造を叫ばねばならぬ。

秋吉の偉人本間氏は不良少年や免囚などを集めて感化事業に従事せられて居るが、この本間氏の教育法などは今日の學校に於て採つて以て學ば

なければならぬ點が非常に多い。本間氏は、斯う云ふ兒童や免囚は口先ばかりで直さうとしても直されるものではない、自ら彼等と伍して知らず識らずの間に彼等の内心に隠れてゐる靈能を呼覺ますことが必要であると唱へて、自分から鎚を振つて石工となつてゐる。そして皆と一緒に毎日石を割りながら、其の間に心靈を呼覺まして眞人間に仕上げて居るさうである。この不言實行、熱烈な愛の力、こゝが教育の尊い所である。

學校によつては、悪い事をした者はどいゝ、出してしまふが宜い、そんな者が居ると外の良い子供までが漸次それに感染して恐るべき弊害を醸すものである、悪い事をする子供は傳染病に罹つた者と同一である、傳染病患者は傳染病院に入れて隔離するやうに、さう云ふ子供は學校から追出してしまつて他の子供に感染しない様にしなければならぬと云ふやうな考を持つて居る人もある。併しこれは所謂事勿れ主義で、さう云ふ様な者を學校に置いて置きさへしなければ事が無いといふ考から起つて來たもので、

誠に姑息な我儘勝手な遣方であると思ふ。悪い子供であればあるほど學校でそれを訓化する必要がある。悪い子供を學校から追出して廣い社會に投出すのは丁度虎を野に放つ様なものである。益、其の犯罪は大きくなるばかりである。昔の或る老僧が悪い事をした小僧に對して、お前は悪いから此の寺から出すことは出来ない、俺の手許に置かなければならぬと云つたと云ふ逸話がある。斯う云ふ考が今日の學校にも欲しいものである、是れだけの覺悟が欲しいものである。不良少年の感化はどうしても愛の力に待たなければならぬ。愛の力だ。本當な愛だ。愛は信仰である。教育の根本である。

宿題問題

近來宿題の可否といふことが教育界の問題となつて盛に論争されてゐる。

或る縣の如きは入學試験の豫備教育を絶対に禁止する目的で、若しも放課後兒童を學校に残したり、豫備教育の爲めに特別に兒童を指導したりした様な教師があつたら、懲戒免職にすると云ふ嚴命を下した。其の理由とする所は兒童の心身に害が有ると云ふことに在るさうだ。

宿題は果して害が有るであらうか。成績を飾らうとする教師の野心から出たものとする、其れは決して許せない。教授時間では所定の仕事は片付かぬからと云ふのなら、其れは教授時間の延長である。そんな考へ違ひから出た宿題ならば絶対に禁止しなければならぬ。

併し私は宿題其のものを全然悪いとは思はない。宿題は智育の上から見るよりも寧ろ訓練の上から見なければならぬ。學校の教育はどうしても團體的に偏し易い。しかし一面からすると、獨り机に向かつて研究すると云ふとも必要である。いや必要であるといふばかりでなく、個人を完成させる上から見てそれが非常に大切である。

心身に害が有ると云ふ議論もあるが、其も考へ方である。兒童は興味さへあれば少々仕事を課せられても些とも苦痛を覺えない。面白い事であつたら、どんな事でも喜んで従事する。さうして些とも心身に障礙を及ぼさない。要は兒童が發動的に従事するか、受動的に従事するかと云ふことに依つて決まつて來る。

兒童が仕事に興味を有つて發動的に従事する様になつたら、今日の教材では寧ろ不十分である。もう少しと、つさり仕事を課して差支無い。

今日の教育者は餘りに世話を焼き過ぎる。ちつと六ヶ敷い事であつたら直ぐに手を出して指導しようとする。分りにくいと思つたら繰返し繰返し噛んで含める様に言つて聽かせる。それが悪い。一寸仕事が多過ぎると、もう心身に害が有ると云つて心配する。心配される方が堪まつたものではない。斯うしてみんな馬鹿にされてしまふ。

或る縣の豫備教育禁止令の如きも、單に心身に害が有ると云ふだけの事

であるならば、それは玉石混淆で、意見の矛盾も甚だしいものである。害の有るものもあれば害の無いものもある。害の無いものには出来るだけ準備させて、より以上に發展させても宜いではないか。

教育者の頭腦は一般に甚だ偏狹である。少し缺點があれば其れを氣にして、どんな好いことでも採らうとしない。それが甚だ宜しくない所である。進歩しない所である。物事には長處があれば必ず一面に缺點の伴ふものである。些つとそつとの缺點があると云つて、其を氣にして居たら、新しい事には手を出すことが出来ない。矢張り在來りで、可もなければ不可もない、平凡な仕事を繰返さなければならぬ事になる。情ないことだ。

宿題問題の如き、私はもう少し大きな眼で眺めたい。さうして或る意味からして學校教育の缺を補ひたい。幼稚な學年ではそんな譯にも行くまいが、少し進んだ學年では學校の教育を出来るだけ宿題的にして見たい。さうして自己自身の力で向上し發展する様に仕向けたい。

日本の教育は學校と家庭とが餘りに懸離れてゐる。智識と實行とが伴つてゐない。學校の仕事が學校だけで、それが兒童の生活に大した影響を及ぼさない。これは誠に不經濟である。日本人は學校に居る間は兎や角やつて居るが、一度學校を出ると、それからもう些とも發展しない。これは日本人の大なる缺陷である。此の缺陷は全く學校教育の罪である。宿題問題の如き、もう少し大きな眼で眺めて論議したい。さうして其處にも少し大きな意味を發見したい。

教師論

(一)

昔の教師と今の教師とは餘程趣を異にして居る。昔は學徳の優れた人があると、其の人の處へ教を乞ふ者が集まつて來て、自づから其處に教師が

出來生徒が出來たものだ。今は學校があつて其處へ兒童生徒が集まる。それを教へる爲めに教師が任用される。而も其の教師は一定の資格を有してゐなければならぬことになつて居る。餘程趣が異つて來た。

教師と學校との關係、教師と生徒との關係が餘程變つて來た。教師は學校で勤める役人のやうなものになつてしまつた。さうして一舉一動校長の指揮に従はなければならぬことになつてしまつた。教師と校長との關係は恰も官廳の長官と屬僚との關係の様なものになつてしまつた。斯うして教師は自分の意見通りに兒童生徒を教育することが出來なくなつた。總て學校の意見に服従しなければならぬ事になつた。であるから、若しも意見を異にするやうな場合には其處に大きな煩悶が起つて來る。其煩悶を何うするかと云ふことが問題になつて來た。頑固に自分の意見を立て通さうとするやと厄介者扱にされる。一度校長に睨まれたらもう何うするとも出來ない。私の知つてゐる〇と云ふ教師は校長の御機嫌に逆らつ

て非常な逆境に立たせられた。さうして煩悶に煩悶を重ねて、い、い、い、今では職業を更へて小商人に成下がつて居る。又私が嘗て世話をしたKと云ふ教師は、自己の意見を曲げないで堂々と校長の向ふを張つたと云ふ所から非常に毛嫌ひされて、い、い、い、田舎の學校に左遷されて、今では昔の覇氣もなくなつて、見かへた様なぼんやりした人間になつてしまつて居る。斯う云ふ例は數へ上げたら決して少くはあるまい。

今日の教師が自分の位地を保たうとすると、勢ひ校長の意見に盲従しなければならぬ。そこで幸に校長が良ければ宜いが不幸にして校長が悪いと非常に困る。どうしても妥協的な態度を執らなければならぬことになつて来る。今の所謂優良教員なる者は妥協氣分に満ちた去勢された者でなければならぬ。教師に覇氣の無いのも是が爲である。深刻な教育を行ひ得ないのも是が爲である。今日の制度は確に此點に大なる改造を加へて、教師の自由意思に依つて思ふが儘に教育し得る様にしなければならぬ。

(二)

私の知つて居るNといふ教師は、自分の意見を通すことが出来ない爲めに何時も不平ばかりで煩悶して居る。而も其の不平をあらはに漏らすことが出来ない爲めに、表向では猫を被つて柔順さうに働いて居るが裏面では頻りに蔭口を言つたり、新聞に投書をしたりして學校に非常な迷惑を掛けて居るさうだ。斯う云ふ種類の教師は他にも其の例が少くない。

一體確かな主義を有つて仕事をして行つて、自分の意見が他の意見と異なつた場合に、堂々と争ふことが出来ないで蔭でぐづぐづ言ふのは誠に愚の骨頂である。其處に堂々と戦ふだけの力と勇氣とがなければならぬ。若しも用ひられなかつたら其處を去るだけのことである。それだけの覺悟がなければならぬ。又それだけの自由も與へられなければならぬ。

ところが今日の現状では此の進退の自由と云ふものが與へられて居な

い。其の爲めに、自分の意見と違つたり自分の思ひ通りにならなかつたりした場合にも、泣く／＼それに服従しなければならぬ事になつて居る。是れではいけない。現に私が昵懇にして居る或る教師は、近頃或る都市の學校に轉任しようとして郡の當局者に嘆願したさうである。其の理由は、自分が久しく田舎に居た爲めに色、な方面に後れ勝ちであるから、都市の學校に出て、大いに研究修養を重ねて見たいと云ふ希望だつたさうだ。ところが、何うしても、當局者はそれを許さない。さうしてお前が若しも都市の學校に出ようと云ふなら適當な後任者を捜して來いと言つたさうだ。教員が自分の後任者を自分に求めることが果して出来るものであるか何うか。代りがなければ出さないと云ふことになる、それは殆ど人身賣買の様なものである。自分が行かうと思ふ處にも行けない。自分の身が自分で處置されない。是れほど苦痛なことはあるまい。其の男は、とうとうそれが爲めに非常に悲觀して、今日では斯んな厭な教員などをするよりも、い

つそ、方針を變へて他の職業に従事したいと、某會社に就職口を捜して居るさうである。斯んな事では學校に人物を得ないのも當然である。

硬骨な骨の有る、しつかりとした教師は何うしても今日の學校に容れられない。賢さうなことを口にして、些とも實行の伴はない者や、修養の出來たらしい顔をしてお茶を濁して居る者や、如何にも徳行の具はつて居るやうな聖人ぶつた人や、そんな厭な人物で満たされて居る。自分から自分を欺く者は教師に一番多い。酒を飲んでも飲まない顔をする者も教師に多い。聖人ぶつていやに澄まし込んで居る者も教師に多い。水陸兩棲動物のやうな人も教師に多い。斯んな厭な弊風は是非之を打破しなければならぬ。さうして真人として眞裸體で兒童に伍し得るやうな人を得なければならぬ。斯う云ふ教師を得るには何うしても現在の制度其のものに大いなる革新を加へ、總ての教師が自由意思を以て本當に働き得る様にならなければならぬ。

(三)

教師は教育の尊い所を十分に理解して居なければならぬ。教育を他の職業と同一に看做してはならぬ。所が、近來漸次教育が職業化して行く傾向が著しくなつて來た。教職といふ言葉が他の職業と同一視せられる様になつて來た。無論教師も人である以上は、食はなければならぬ。着なければならぬ。贅澤をしない迄も衣食には相當の餘裕を與へられねばならぬ。現在は其點からして決して十分とは云へない。だがだ。其爲に尊い教職を他の職業同様に職業化すると云ふとは甚だ間違である。自己墮落である。教師が單に物質的の待遇だけを要求して、其の職を樂むことを知らないのは確かに墮落である。教師其人が斯様に墮落して來ると、色々な弊風が其處に醸されて來る。他の勞働者と同様に勞働運動も始まる、同盟休業やサボタージュなども平氣でやる様になる。斯うなつて來ては、教育

も何もあつたものではない。

今日の若い教師はみんな金の事ばかりを考へて居る。學校を卒業して赴任先を選択する場合などは總て金の事ばかりを條件として居る。金の多い處を擇んで行かうとする。一文でも高い處に行かうとする。まるで自分の身を賣るやうな考へで居る。斯うなつてはもう駄目だ。教育の尊嚴も何もあつたものではない。

教育者が斯うなれば社會も其の眼で教師を見るやうになる。勞働者が先生の月給が少いと云つて笑つたとか、生徒が先生の月給が少いと言つて輕蔑したとかいふ様な話はよく新聞などに現れてゐる事實であるが、それなども獨り社會が悪いといふばかりではあるまい。教師其の人が唯物的に囚はれて自己墮落をしたと云ふことも大きな原因を成して居ると思ふ。他の職業に比べて教師の待遇が低いとか、他の階級の人と同一に衣食することが出來ないとか、そんな事を氣にして、やれ待遇を進めて呉れよとか、や

れ今少し同情して呉れよとか、切りに社會に懇へて居る。頻りと騒ぎ廻つて居る。何といふ不見識のとであらう。どんなに社會が同情しても、どんなに國家が待遇しても、教師が斯う云ふ態度を改めない限りは教育の尊嚴は到底保たれない。まあ考へて見給へ。どんなに優遇されたとて、今の所謂成金連に伍することが出来るか何うか。出来ない事を望むのは却て煩悶の種である。自己墮落の基である。

教師は矢張り教師としての尊嚴を保たなければならぬ。さうして其の職を樂まなければならぬ。私をして忌憚なく言はしむれば、今日の教師は一般に修養が不十分である。人の師となるには餘りに淺薄である。實際の所、人の師たるに足るだけの人格を具へた者が今日の教師の中に何人あるであらうか。眞に意義有る教育を施し得るだけの手腕を具へて居る者が何人有るであらうか。我は教育者であると、堂々天下を濶歩し得る人が何人有るであらうか。斯んな事を考へて見ると實に情なくなつて來る。

修養は其の人の光であり、艶である。其の身に十分の蘊蓄があれば人は決して輕蔑するものではない。身に敝衣を纏つてゐても、社會は却て尊敬する。教師の努むべき所は此處だ。社會が何うあらうが、世の人が何と言はうが、側目もふらず唯純一な心で本當の修養を積まなければならぬ。所謂天爵なるものは斯う云ふ人の頭に載く榮冠であり尊稱である。

校長論

(一)

教育改造の最急務として私は先づ教師の解放を叫びたい。

今日の學校は教師の自由手腕を全然束縛してゐる。さうして教師が自由意思に依つて行動することを許してゐない。學校は校長が主宰して、校

内を思ふ通りに經營することになつてゐる。校長は教室の隅から隅まで自分の思ふ通りにしようと考へて居る。

今日の學校は校長が教師を通して兒童を訓化しようと考へて居る。これが抑、の間違である。校長が斯う云ふ考へで居るから、する事爲す事總べてが官僚的になる。多くの教師を自分の思ふ通りに働かせようとする。若しも自分の思ふ通りにならないと、*ドシ、* *く、* *きめ*つける。さうして些とも任せない。自分の極めた事を極めた通りにキ、*チ、* *ン*とやらせようとする。それが思ふ通りに行かないと事々物々叱言をいふ。斯んな事まで干渉しないでもと思はれる事まで干渉する。甚しい校長になると兒童の面前で教師を叱り飛ばすやうな者もある。斯う云ふ有様だから今日の教師は皆機械の様になつて働かなければならぬ。全力を盡して働くことが出来ないことになつてゐる。みんな機械の様になつて働かなければならないことになつてゐる。これでは其の力の伸びよう筈が無い。若い教師などは

斯うした壓迫に對して暫くは藻掻くが、藻掻く力が無いやうになると何うでも宜いと云ふやうになる。さうして乾涸らびてしまふ。硬化してしまふ。これが今日の教師の一般の有様である。

教師の中に、霸氣のあるものは現狀に嫌らないで大いに反抗をしようとする。併し周圍の總てが妥協的氣分に満ちてゐる爲めに、何うすることも出来ないで、藻掻きに藻掻き、煩悶に煩悶を重ねた末、とう／＼學校を跳出してしまふ。これは教師の中でも役に立つ部類のものである。

今日の學校は斯様な官僚的氣分に満ちたものであるから、有爲な、働きの有る教師も、無能な、へつばこ教師も同じ様に働かなければならぬ。自己の人格を無視して、己れを空うして校長に盲従しなければならぬ。堪つたものではない。教育界に人物の無いのも是れが爲である。教育界に霸氣の無いのも是れが爲である。

實際のところ、今日の學校の教師の中には、自分の力を十分に働かせて見

たいと腕をさすつて居る者が尠くない。其が出来ない爲めに何處かへ飛出して見たいと思つてゐる教師も澤山居る。宿直室の一角から天下を睨んで髀肉の嘆に堪えないでゐる教師も澤山居る。併し情實に絡まれて悶えながら不徹底な日を送つて居る者も尠くない。

次に擧げる一文は私の知つてゐる若い教師の手記である。文にちつとも飾りは無いが、其の悶々の情があり／＼と覗はれる。

自分がかつて師範在學中こんな事を聞いた事がある。それは我國の小學教師を見ると、師範卒業當時の者が最も學識の程度高く、それより経験年限に比例して學識の程度が低減するとの事だ。果して然りだ。實際教育界に入つて見ると、あまりに彼等の頭の低級なのに驚く。

初等教育界で、卒業年限が古いといふ事は、自己の知識はそれに應じて低級なりとの表現と思へば大差ない。前にも述べたが、彼等は目前の支障なきに甘んじて、修養も経験も怠つた輩だ。かゝる輩が殿のぼりにのぼつて、首席教員となり校長となつてゐるのだ。

彼等の口癖として、二口目には自分のかつて経験にてはといふ一體経験と

は何を意味するのだらう。無定見、無自覺なる経験は何の役にも立たぬ。何の價値もないものだ。それに何ぞや。自己の経験といふを無上絶對の價値あるが如くに振舞ふ。つまり彼等には自覺がないのだ。自覺なき定見なき彼等が、年月の経過のお蔭で今は堂々たる首席教員なり校長なりに、なりすましてゐるのだ。そんな事で教育の効果があがつたら大變だ。

たまに新卒業生が立派なる意見を出すと、彼等は一も二もなく、未だ若い語を以て排斥してしまふ。眞理に年齢の老若のある筈がない。然し所謂若い教員の理論に服従すると、彼等老朽者は顔が立たん位にまで考へてゐるのだ。實に彼等の爲に悲しむべき事だ。

自分の眼に映する小學校長は、無定見無自覺にして人の鼻息のみを上手に窺ひ、自己にしまりなき丁度葛藤的の者が世間からは其校長の如く言はれてゐるやうに思ふ。實際さうだ。彼等の唯一の校長術は村吏や郡視學の鼻息を上手に窺がふ事を以て第一としてゐる。だからいつても自己に定見がない。權威がない。村吏などから勝手な目にあつても御無理御尤も主義をとつてゐる。

その辯どうだ。自分の部下に對しては校長風を吹かす。やれ訓練がどうだの教授がどうだの甚だしいのは教員として道德觀念が缺けてゐるの、或は修養が足らんの研究心が乏しいのとそれは、馬鹿げきつた事を言つて、如何にも

えらい氣になつてゐる。物事は自己を基礎として他人を律する事が大切だ。自己に出来ない事を喋々述べた所で何の効果がある。それでも部下の教員がだまつてゐると自己の言つた事が力あつた様に思つてゐる。實に彼等も哀れな者だ。心ある部下は、あまり愚にもつかぬ事なれば、丁度蠶蠅をよける的によけてゐるのだ。

一體無能な校長程教員を永く學校に居残らせる。そしてぐすりぐすり一日中を過してゐるのだ。そしてそれがつもり積つては一年となりかくて永久的に。これは何が原因だらう。部下時代には随分氣概あつた連中も一度校長になると前述の校長病に犯される。校長の心理はよほど變になると見える。

然し校長といふ關係にあると何かについて校長は部下を壓制する。氣に入らんとどん／＼當局者に惡口する。或は陰にまはつて穴探しをする。彼等はどこ迄も圖々しい。男らしくない。若し一朝識見ある部下に忠告をうけると表面は極めて感謝して裏面では藥の入れ換への様に轉動させる運動をする。そして無能者や兒分をあつめて極めて表面的圓滿を期し自己の地位の持続をはかる。

だからかかる校長の部下には、低脳か或は氣概なき輩が集つてゐる。それだからいつ迄たつても學校の成績はあがらない。常に退歩を續けてゐるのだ。

かういふ輩が世間の校長の大部分だ世の中は予盾の塊とはよくいつたものだ。才識あり氣概あるの士はどし／＼邊鄙に左遷せられ、無自覺者はどん／＼榮進する。之を予盾といはで何といはう。當局者も當局者だ。これら卑劣漢の校長連のおみきによつて彼等の節操を狂げる輩がある。憐むべき事だ。

こんな事でどうする。父兄よ醒めよ。當局者よさめよ。而して自己町村の爲に眞に獻身的努力者を校長となせ。

校長よ。良薬は口に苦しの言を眞に味へよ。そして良薬たるべき獻身的眞教育者を見出せ。そして遺憾なく彼等の抱負を發表せしめよ。校長は校長の人格を保ち、苟も部下教員におくれざる進歩に心掛けよ。而して眞に部下を愛せ。之れやがて自己を愛する事となるではないか。

實際のところ今日の學校で衷心満足して働いて居る人が何人有るだらう。去勢された人か、働き疲れた人か、老耄けた人か、暇潰しにやつて居る人か、それ位なものである。今日の教師は馬鹿になつてゐる。馬鹿にならねば教師にはなれないのである。沈香も炷かねば屁も放らぬ様な人間でなければならぬ。斯う云ふ教師でなければ校長の思つた通りに働くことが

出来ない。學校が斯んな工合になつてしまつて、ちつとも活氣のない、ちつとも濡ひのない、乾涸びたものになつたのは皆校長の罪である。

(二)

校長は自分が仕事をすると云ふよりも教師に仕事をさせると云ふことでなければならぬ。小面倒な干渉は絶対に避けて、教師自らが責任を感じる様に仕向なければならぬ。總てを打任せる大度量が欲しいものだ。それではなければ人を働かせることは出来ない。兒童の人格を尊重する様に教師の人格をも尊重しなければならぬ。今日の學校は一般に教師を人格者として取扱つて居ない様だ。若い教師の不平は此處に在る。働きのある教師の不満心も此處にある。

校長は絶対に教師を信任しなければならぬ。さうして思ふ存分に自由手腕を振はせなければならぬ。それが學校の發展であり進歩である。校

長一人が仕事をしようと思つてはならぬ。自分一人が偉さうにしてはならぬ。學校の成績が即ち校長の成績であると思はなければならぬ。

私の知つてゐる或る校長は私の知つてゐる範圍に於ては最も理想的の校長であると思つて居る。此の校長は教師のする事にもつとも干渉しない。叱言もいはない。曾て一度も蔭で悪口を言つたことが無い。尙又教師の面前で教師を讃めたことが無い。善いと言つたことが無い。學校では此の通りであるが、教師の居ない處では、縣の當局者や督學官などに對して、自分の部下の教員の優良などを頻りに推奨する。私の學校には斯う云ふ良い教員が居ります、斯う云ふ熱心な教師が居ります、さうして斯んな成績を擧げて居ますと口を極めて其の功績を推奨する。是が他から漏れ傳はつて何時となしに學校の内に知れ渡る。内の校長は學校では黙つて居るが餘所に行くと俺共の事をあんなに讃めて居る、俺共のした事をあんなに認めて居る、實に有難い、働き甲斐があると、斯うして總ての教師が喜んで働く

様になつて居る。是だ。斯う云ふ態度でなければ多數の教員を率ゐて成績を擧げることには出來ない。私は斯う云ふ校長が本當の校長であると考えて居る。

校長は教師をして、其の志を遂げさせるといふ覺悟がなければならぬ。是れが無ければ安心して働けるものではない。教師はそれ／＼の目的を有ち志望を有つて居る。其目的なり志望なりを貫徹させる爲には出來るだけの同情と援助を與へなければならぬ。研究したいと思つて居る者には研究の餘裕を與へ、修養したいと思つて居る者には修養に對する便宜を與へてやる。是れが本當の精神的の待遇である。

校長は決して部下の教師を俸給や地位で釣らうと考へてはならぬ。働いて呉れ、今に月給を昇げてやるとか、地位を進めてやるとか云ふやうなことを餌にして、教師を操らうと思つてはならぬ。ところがだ。今日の學校には不幸にして斯う云ふ校長が多い。丁度犬に車を轆かせるのに目先に

肉の片をぶら下げて置いて走らせる様なものである。目の前に下がつてゐる肉を食はう食はうと焦りながら重い車を轆いて走つて行く。何ぼ走つてもとう／＼、其の肉を食ふことが出來ない。さうして最後には力が盡きてへたばつてしまふ。斯う云ふやうな所謂温情主義では駄目だ。今日の學校は不幸にして斯う云ふ温情主義に満ち満ちてゐる。それが最も良い校長だと考へられて居る。校長と教員との關係は恰も勞働者と資本主のやうな關係になつて居る。是れではいけない。校長も矢張り教師と同じ様に勞働者でなければならぬ。其處に本當の意義が有る。教師の懇へる所は校長も懇へなければならぬ。泣くのも笑ふのも一緒にしなければならぬ。眞裸體で教師に伍するの覺悟がなければならぬ。專制的官僚的の時期はもう疾うに過去つて居る。今まで其れで行つてゐたのは教師が無能であつたからである。もう今日ではそんな事ではいけない。

學校は何處迄もデモクラチックな氣分に満ちた處でなければならぬ。

亦さう云ふ處である。校長は監督するといふ心持ではいけない。何時も教師の味方となつて献身的に働く者でなければならぬ。真先に立つて研究に従事しなければならぬ。さうして教師を保護し愛撫して其の自由手腕を十分に振はせる様にしなければならぬ。人に長たる者は多くの人を包容するだけの度胸が欲しいものだ。若しもそれだけの人物が無いとするならば校長は寧ろ無い方が宜い。實際今日の學校は校長が居るために禍して居ることが多い。私は斯う云ふ現状から眺めて、教育改造の最急務として先づ教師の解放を叫び、校長其人の自覺を促したい。

視學論

(一)

現在の制度で最も面白くないのは視學制度である。過去は兎に角今日では一日も早く視學制度を撤廢しなければならぬ。今日の現状では校長の上に視學が居る。丁度視學は總校長の觀がある。斯うして視學が上から壓迫を加へて校長は全然虚器を擁するのみである。視學の一舉一動は全郡市の學校に影響する。打てば響く様に相應する。是ではいけない。或る教師の書いてゐる日記中に、視學が替ると俺の學校の教育は全く變つてしまふ。此頃替つた視學が又替つた。すると俺の學校の教育は又變つてしまつた。まるで猫の目の様だと書いてゐた。其の通りだ。今日の現状では視學が替ると其の郡市の教育が全く一變してしまふ。斯う云ふ有様では教育の進歩は覺束ない次第である。

斯う云ふことになつた主な原因は校長も不見識だが、今日の制度其ものが悪いと思ふ。今日の制度では何うしても斯うならなければならぬ。阿附する校長は優待され硬骨の校長は左遷される。これでは堪つたもので

はない。

私の知つてゐる或る校長は視學に酒を飲ましたり鼻薬を買つたりする。さうして巧みに視學の歡心を買つて自分の位地の安全を保つてゐる。

又私の知つてゐる或る視學は誠に不埒な奴で、自分の職權を笠に被て自分の管轄してゐる學校の女教員を誘惑する。一寸遊びに來いと云つて不埒極まる行爲を敢てしたり、自分の思ふ通りになる女教員には有ゆる優待を與へる。或る女教員の如きは此の誘惑の犠牲となつて、たうとう發狂して死んでしまつたと云ふことも聞いて居る。誠に由々敷い事である。又私の知つてゐる或る學校の校長は非常に硬骨な男で、視學でも何でも正義の前には頭を下げない。堂々と所信を陳べて下らない。視學は其を非常に煙たがつて、其の學校には全く寄付かない様になつたさうだ。其の後何でも其の校長は左遷されたと云ふことも聞いて居る。

今日の學校は斯う云ふ現狀に在る。これが今日の教育をどれだけ妨げ

てゐるか教育の發達をどれだけ阻碍してゐるか。校長は有れども無きが如く校長の知らない間に教員はどしどし動かされてしまふ。教員は校長よりも視學に阿附する。校長の命令はちつとも學校に徹底しない。如何に有力な校長でも自分の自由手腕を振ふ餘地が無い。視學が巡視すると言つては大騒ぎを始める。今迄無かつたものが突然飾り付けられたり、昨日迄亂雜であつたものが綺麗に片けられたり、汚れてゐた廊下がびか／＼光つたりする。それも視學の巡視が濟んでしまへば復た元の通りである。是では駄目だ。まるで視學のために學校が出來て居るやうなものである。斯う云ふやうな有様で有爲な教員も漸次去勢されてしまふ。實に情ないことである。視學さんの御機嫌に叶へば其で宜い。視學さんのお氣に入る様にすればそれで宜いと考へて居る。我が普通教育は斯うして根本的に破壊されてしまつてゐる。

(二)

私は小學校の訓導もやつて見た。それから師範學校の訓導もやつて見たし、高等師範の訓導もやつて見た。そして今又視學の椅子にも着いて見た。私は今まで小學教育の實務に當つて、小學校の教育を内から眺めるばかりであつた。今度は外から小學教育を眺める身分になつた。私の小學教育觀には大いなる變化を見なければならなくなつた。私の視學論には大きな背景を有つことになつた。

私は新任の初めから視學其ものには腹一杯の不平を懷いて居た。新任の初めに視學として出来るだけ意味の有る仕事をして見たい。活かされるだけ活かして見たい。改善の出来るだけ改善を加へて見たいと考へた。愈新任の噂が知れ渡ると餘程心配した人もあつたさうだ。どんな事をするだらうかと恐怖の念で迎へられて居たさうだ。

愈、赴任して見ると、先づ市の有志者の宅を訪問しなければならぬ挨拶廻りをしなければならぬと注意を受ける。厭で厭で堪らないが、車を飛ばして名刺を投込んで廻つた。それから愈、學校入である。學校に行くと校長さんが大層丁寧に取り扱つて、折角のところであるから子供にも紹介させようと云ふ。併し私は何處でもそれをお断りした。學校には校長が居る。校長が一番偉い人である筈である。校長以外に偉い人があると云ふのを考へさせるのは兒童教育の爲めに非常に有害である。子供は知らない方がよい。知らせない方がよいと云つて絶對にお断りした。

教員室では教員諸君に挨拶をしなければならなかつた。さうして自分の考を話さなければならなかつた。私は思ひ切つて斯んなことを言つて見た。私は視學である。併し所謂視學ではない。私の考へて居る視學は、又是からやらうと思つて居る視學は教育技師である。諸君の相談相手である。諸君が何か相談したい事があつたら其の相談に乗つていろくと諸

君の便宜を圖るのである。此處は何うしたら宜からうかと云ふ場合には参考になることを言つて聞かせるだけである。併しそれは唯私の考へた所を言ふだけで其の善し悪しは一切校長に判断して貰はなければならぬ。校長が悪いと言へば其は悪いのである。校長が善いと言へばそれが善いのである。私は唯自分の思つたことを技師としてお話するだけのことである。之から學校には屢、お邪魔になる。併し諸君の教室を無斷で臨検するやうな不埒なことは絶対にしない積りである。教室は諸君の靈場である。最も神聖な諸君の域廓である。それを無斷で侵すといふことは絶対にしない積りである。私は屢、諸君の學校にお邪魔になるであらうが、諸君が視て貰ひたいと言はない限りは無理に諸君の教授を視ようとはしない。だから視て呉れろと言はなかつたら、二年でも三年でも視ないと、斯んなことを話した。みんな驚の眼で私を視詰めてゐた。

私は此の方針を眞面目に實行した。ところがだ。長い間の習慣因習と

いふものは恐ろしいもので、矢張り私を技師として迎へない。さうして變な考で私を迎へて居る。どうも私の考とは餘程距離がある様である。私は其の爲めに屢、煩悶したことがある。

社會も亦視學を見る眼が違つてゐる。何か事が有ると其は皆視學の責任であると思へて居るらしい。子供の教育に關しても視學が方針を立て、其の方針通りに學校が動いて居るものと考へて居るらしい。何處其處の學校は遠足をしたさうであるがあれは一體何處に行つたのだらう。何處々々で辨當を食べてあの時に茶が無かつたさうだがと云ふやうな事まで視學に詰問する。遠足に行かうが行くまいがそんな事は視學の關係する事ではない。學校には校長が居る。其の爲めの校長ではないか。校長が遠足しようと思へば勝手に遠足する。辨當を食はせようと思へば校長が食はせるのである。茶を飲ませようと思へば校長が飲ませるのである。そんな事は視學の關する事ではない。そんな些細な事まで一々視學が指

圖して居るものと考へて居るらしい。これが根本的の間違である。

教員の俸給を昇げる、年末賞與を給與する、職員の進退を定める、そんな事も皆視學の一存で行くものと考へて居る。厭なとだ。私はそんなことは一切校長と合議することに決めてゐる。さうして公平を保つことにしてゐる。斯んなことを視學が一存で決めるから間違が起るのである。合議しないから不公平になるのである。

學校に行つても出来るだけ教員諸君と打とけてお友達になる積りでやつて見た。茶も飲むし、冗談も言ふ。ちつともブ、ラ、ない積りでゐる。

私の最も昵懇にしてゐる或る教師などはそれを非常に心配して、貴方はもう少し視學らしくなさらぬと威嚴を墜しますと言つて忠告して呉れた。併し私は矢張り其の態度を變へなかつた。さうして一切の祕密主義を排斥して、何でも開けッ放して、悪いことでも善いことでも何でも皆の目の前で話すことにした。先生方の友達、校長さんの相談相手、これが私の主義であつた。初めは餘程誤解されて居たさうであつたが、だん／＼認識されて來たらしい。

(三)

視學會が始まつた。郡の視學や市の視學が一堂に會して色、な實際問題を協議する會合である。私は此の會にも大いなる期待を有つて列席して見た。ところが驚いた。來る視學も來る視學も皆博勞のやうなことばかりをやりだした。其處の隅にも二三人、此處の隅にも二三人、みんな教員の賣買ばかりを話し合つて居る。お前の處の教員を呉れないか、俺の處の教員と換へつことをしよう。何々教員は良いやうだが何々教員は詰らないと云ふやうなことばかりを話し合つて居た。

私はそれが厭で／＼堪らなかつた。斯う云ふ考で教員を遇して居れば何うしても教員の人格を無視するようになる。まるで教員を物件扱ひにし

て居る。私は生れてから斯んな厭な會合に臨んだとは初めてである。稍々暫く人の賣買をやつて居ると、其の内にベルが鳴る。所定の位置に着く。知事さんが壇上に現れる。視學官が向ふの椅子に頑張る。其の側に縣視學縣屬殿めしいものだ。知事が訓示をする。視學官が注意をする。縣視學が叱言をいふ。斯んな事で此一日は潰されてしまつた。私は考へた。實際斯んな會合が何になるだらうか。斯んな會合が教育の上にどれだけの貢獻をするであらうか。今日の視學制度と云ふものは斯んなに厭なものであらうかと、泌みくゝと感ぜざるを得なかつた。一日過ぎ二日経つて、三日目には師範學校の視察をした訓導が一生懸命で授業をする。それを皆で巡視をするのだ。私も皆の後について參觀した。どの教室もどの教室も厭な型ばかり人見せの間に合せな、素人だましの教授ばかりであつた。私は此處でも考へた。教育改善の第一着手は何うしても此の師範學校の改善である。此處を根本的に改造しなければ、迎も縣下の教育を改善する

ことは出来ないと思へた。私の期待してゐた視學會は斯う云ふ厭な氣分に満たされたものであつた。

其の次は校長會、この校長會が亦問題だ。校長會は恰度視學會の小さい様なものである。校長が寄つて話をする、屹度教員の噂ばかりである。あの教員が何うの、此の教員が何うのと、教員の月旦ばかりである。其も自分勝手に都合の好いやうなとばかり言つて居る。自分の學校に都合の好いことばかりを述べて居る。見え透いたやうな勝手を頑固に主張する。堪つたものではない。

私は先づこの校長會から改造しようと思へて、成可くデモクラチックにしようと思つた。校長相互の協調を圖り従來の弊害のある所を改善しようと思つた。校長と校長との間に在つて相互の意思の疎通を圖つたり、市の當局と學校との間に立つて便宜を圖つたり、何か面倒な事があつたら其の相談相手になつたりした。今日では此の會合は餘程面白い愉快な會

合の一つとなつてゐる。

其の内に學年末——學年末が來ると、さあ、教員の進退問題があつた。學校からも此の學校からも持掛けられる。教員がやつて來る、やつて來る、いろいろな事情を訴へて來る。私は臺灣に行きたいとか私は出身郡に歸りたいとか、私は東京の學校に行きたいとか、さまざまな勝手なことを云つて來る。中には自分の月給を昇げて呉れと云ふて來た者もある。昇げて呉れなければ餘所の學校に行くと云つた者まである。

私はそれ等に對して一々開けつ放して聞いてやつた。事情のある者には同情してやつた。間違つた者を持つた人には注意してやつた。さうして事情の許す限り教師の自由意思を許してやつた。臺灣に行きたい者は臺灣にやり、東京に遊學したい者には東京に出してやつた。郷里に歸りたいと云ふ者は郷里に歸してやつた。斯うして一方に教師の自由を許すと、其の次の問題は其れの補缺である。是がなか／＼厄介である。こちらの

方では教師の自由意思を尊重してどい／＼許してやるが、扱て其補缺となると、他の郡市から人を求めなければならぬ。幸に此方に來ようと思ふ者がある、と云ふので先方に相談すると、代りがなければ遣らぬと頑張る。代りを遣る程なら相談する必要も何も無い。い／＼と面倒な交渉に交渉を重ねても、なか／＼遣らうと云はない。中には一度思ひ立つたことであるから私は數年の恩給を棄て、辭職してでも行きたいと申立てた者があつた。併しそれでも許して呉れない。私は或る視學に對してあんまりと思つたので、なぜ君等は人權を蹂躪するか、今少し教師の人格を尊重しないか、折角あれほど希望して居るならば希望通りに許してやつたら宜いではないか、一方で許せば亦屹度一方に希望する者が出來て來る。其で宜いではないかと争つて見た。併し長い間の習慣に囚はれた硬化した頭腦の人にそんなことの解らう筈が無い。徒らに顔を赤くして争つただけが損であつた。

私は教員の進退問題に手を着けて、實際に今日の制度ほど教員の自由を束縛して居るものはない。まるで年期奉公した賣婦の様である。一遍奉職したら絶対に他に出ることを許さないと云ふ様な模様が見える。これでは本當の教育が出来よう筈が無い。教育が子供の個性を尊重し、子供の自由を尊重しなければならぬと同様に、教師の個性を重んじ教師の自由を重んずると云ふことは最も必要なことである。私は斯う云ふ點に對して最も痛切に改造の必要を認められた。

次は豫算の編成である。私は赴任の初めに或る先輩から聞いて居た。視學の一番大事なことは豫算の編成である。市の當局をうまく説きつけて成可く多くの經費を取つて、教員の月給も上げてやるし、學校の設備も良くしてやる、それが視學の一番大事な任務であると、斯う云ふことを注意されて居た。實際に此の點は私も大いに其の必要を認められた。教員の待遇を進める。學校の設備を良くする。斯んなことは其の局に當つて居る者で

なければ出来ないことである。どんなに校長や教員が熱心に運動してもそれはなかく出来ないことである。視學の如き職務に在るものは斯う云ふことに最も努力しなければならぬと云ふことは私自身も認めて居た。そこで校長諸君と數回打合はせて事情も聴くし、實地の調査も行つた。さうして出来るだけの豫算を計上することに努力した。斯うしてやつと組上がった豫算を學務委員會に懸ける。市參事會に提出する。それから市會が開ける。マア大體斯んな順序で學校の一年間の經費といふものが出來上がつてくる。

私は初めて市會と云ものにも列席して見た。參與員として番外の椅子に掛けて見た。市會議員から随分皮肉な質問も受けたし、中には教員を雇人か何かの様に考へて、色々無理な酷評も聴かされた。併し大體學校の事には多くの人が同情して居る様に見受けられた。さうして學校の豫算には寧ろ之を削減すると云ふよりも、増額しようとする云ふやうな同情的の態度

を執る人が多かつたと云ふことは非常に心強く感じた。視學なり校長なり教員なりが本當に熱心で眞に斯の道の爲めに力を盡して居るといふことが市民に認められたら、少々な經費位を惜むものはないと云ふことを認めて非常に心強く感じた。

是れが大體視學の仕事らしい。斯うして内容を曝げ出して見ると彌、視學其のものに對して大いなる改造を叫ばなければならぬ。

(四)

私は視學改造の先決問題として先づ視學其のものが必要なりや否やを考へて見たい。私は現在の如き視學は絶対に必要が無いと認める。従來は兎に角、今日に於ては視學の必要は絶対に無いと信ずる。今まで述べた様な事の大部分は學校の校長に一任して差支ない。學校長の自由手腕に任して置いて些とも差支ない。視學は單に視學でよい。之に任免黜陟の

權を有たせると云ふことは絶対に不可である。唯純然たる指導者であつて欲しい。指導者に任免黜陟の權を有たせるのは人の自由意思を妨げるものである。其の人の言つた通りにならぬといけなとか、意見には服しないが意に逆つてはいけなとか云ふ様な厭な迎合氣分になつて來ると、教育の發展どころか寧ろ一大障礙となるのである。

視學の方から云つても、そこは人間の弱點で、自分の意見通りになるものならないのは、どんなに公平を保たうとしても、其が任免黜陟の上に現れて來る。だからして私は今の視學制度を改造して此の二つを引離してしまひたい。さうして視學は純然たる視學であらせたい。尙又視學は一人ではいけない。少くとも各教科に一人づつ有つて欲しい。そして其の道に堪能な人を任用したい。斯うして校長や教員の相談相手となつて指導する人が欲しいものだ。

如何に有爲な人でも總ての教科に通ずることは不可能である。一人で

多くの學科を擔任しなければならぬ現狀に於ては何うしても適當な指導者を必要とする。今日の學校はそれを要求して居る。斯うして必要ある度毎に、視學は教員を指導したり、其の相談相手になつたりする様にしたら、學校から云つても餘程便宜である。

教育の進歩發展は教師各自の努力に待たなければならぬ。他から督勵鞭撻を加へなければならぬと云ふやうなことでは駄目である。現在の我が小學校はもうそんな時期ではない。教育は人格と人格との交渉である。兒童の人格を尊重するやうに教師の人格をも尊重しなければならぬ。人格を無視する様な制度や規定は總て絶對に之を撤廢しなければならぬ。國家も社會も今少しく教師の人格を尊重しなければならぬ。

教員の優遇は決して物質的の方面ばかりではない。今日の社會は教員を物質のみで待遇しようと思つて居る。教員自身も亦さう云ふ考へで居るやうである。私は天下の教育者が何故に物質的の方面のみの優遇を叫ん

で精神的方面の優遇を叫ばないであらうかを疑つて居る。斯う云ふ附甲妻ない狀態に陥れたのは確かに視學制度の罪である。視學が優良な教員を待遇したり或は獎勵を加へたりする時には、何時でも待遇を進めるとか月給を増してやるとか云ふ様なことばかりを口にする。さうして教員を働かせようと考へて居る。これが禍をなしたものである。月給を昇げて貰ふといふことは、つまり自分が認められたことになる。待遇が進められると云ふことは自分の優良を象徴したものであると考へさせられた。斯うして教師は漸次に物質欲に憬がれる様になされてしまつた。

教師は教育といふ尊い職務を執つて居るのである。國家も社會も大いに之を尊重しなければならぬ。ところが世が物質的に流れると共に漸次に教師を卑下する傾向が生じて來た。或る成金が自己の愛兒を受持つて居る教師の一月の收入が自己の一度の晚餐の費用にも及ばないと云つて笑つたといふ話もある。路傍に遊んで居た工夫が教師の通るのを指し

て、あんなに威張つて居るが、あの先生は俺共が二三日分の給金にも足らない月給を取つて居ると言つて嘲つたといふ話も聞いて居る。斯んなになつては教育の權威も何もあつたものではない。斯う云ふ工合に漸次に教師の尊嚴が侵されると云ふとは是は確かに社會の缺陷であると思ふ。社會が確かに悪いと思ふ。併し一面からすると教師其人にも罪がある。教育が次第に職業化して月給の爲めに動く様になり待遇の爲めに仕事を成る様になつて来る。斯う云ふことが漸次に社會が教師を冷遇する基を成して居ると思ふ。此の主な原因は確かに制度の上にある。制度の罪だ。制度が悪いのだ。もつと突詰めて言ふとつまり視學制度が悪いのだ。私は斯う云ふ意味からして現在の視學制度を全然撤廢したい。さうしても少し意味有るものに改造を加へたい。

師範學校改造論

(一)

小學教育を根本的に改造するには先づその源泉たるべき師範學校を改善しなければならぬ。今日の師範學校には幾多の弊害がある。何とも云へない一種の厭な氣風が此處で養成されて居る。

私が高等師範に居た時の經驗であるが、毎年師範出の人と中學出の人とが數名づゝ教生に出て来る。その師範出の人と中學出の人とが實地の練習を行ふのである。初めの内は師範出の人が遙かに中學出の人に優つて居る様に見えるが、段々日數が経つに随つて師範出の人はちつとも進歩しない。さうして中學出の人はずん／＼伸びて行く。師範出の人にはちやんと極まつた型が出来て居るが中學出の人には其れが無い、如何にも暢び

い、と如何にも卒直である。師範出の人には教員臭い所があつていけない。あつさりとして居ない。阿附したり迎合したりする傾向が多い。目の前を飾る風がある。偉さうな風をする傾きがある。早合點早呑込をする風がある。胡麻化す風がある。間に合せのことを言ふ風がある。堂々と戦ふ氣分が乏しい。知らないことを知らないと言ふことが出来ない。一寸接して厭味がある。斯う云ふいろ／＼な厭な所があるが特に看逃がし難い缺點は其の一種厭な型が出来て居ると云ふ事である。さうして其の型を取去ることが出来ないと言ふ事である。教員臭く拵へ上げられて人間味が無い。これが最もいけない所である。

陸軍でも、幼年學校出の人には一種の型が出来てゐていけないと云ふので、近頃廢止論まで起つて居る。師範學校にも幼年學校にも一種の厭な校風といふものが有つて、其の校風に無理に當符めようとする傾向がある。其の爲めに斯う云ふ一つの型が出来たのではあるまいか。私は中學出の

人と師範出の人とを手にかけて見て特に斯う云ふ相違を認めめた。是は私だけの經驗ではない。外の教官も皆斯う云ふ話を話してゐた。看逃がしてならない所だ。注意しなければならぬ所だ。

師範學校にも幼年學校にもちやんと一つの校風といふものが出来てゐて其の校風に合はせようと力めて居る。さうして其處に非常な壓迫を加へて居る。此の壓迫が師範學校や幼年學校の教育の障礙をなして居る様である。學校内の總べての生活が斯んな工合に出来て居る。新入生などは随分此の壓迫に苦しめられる。私の知つて居る、或る師範學校では講堂修身と云つて、新入生を講堂に集めて、此の校風の鑄型の中に入れる爲めに色々な酷い制裁を加へる習慣があるさうだ。又鐵拳會と稱して學校の校風に合はないやうな生徒は遠慮會釋なく袋叩きにするやうな習慣も出来て居るさうだ。

まだ教育がどんなものやら學校がどんなものやら分らない子供上りの

生徒を捉へて、無理に型に當符めようとする。可哀相なことだ。恐るべきことだ。

私が或る師範學校の茶話會に臨んだ時に生徒がいろ／＼な茶番をやつた其の中に、舍監を鍛冶屋に擬へて、其の鍛冶屋の舍監が生徒を眞赤に焼いて、鐵敷の上に載せて、鐵鎚で打鍛へて居るところをポンチ畫に描いて持出した。すると皆の生徒は一齋に拍手して関の聲を揚げた。舍監も校長も其の席に居た。皆濫い顔をして眺めて居た。私は最も痛快を覺えた。今日の師範學校は此のポンチ畫のやうだ。鑄型に符まらないものはどしどし叩き伸ばして鑄型に符めようとする。これが所謂師範學校の教育である。少々氣概のある者は之に反抗しようとして試みる。すると尙甚だしい壓迫が加へられる。生意氣なと云つては殿りつけ、横柄と云つては壓制する。斯うして壓迫の中に其日を送らせられて、初の内は藻掻きに藻掻き足掻きに足掻いて居るが、だん／＼日數が經つに随つて何時となく去勢されてし

まふ。さうして所謂師範型の人物が出来る。

併しこれは外面ばかりのことで内面までを鑄直すことは出来ない。表向は斯うして兎や角形が出来るが内面には大いなる不平を抱いて居る。さうして所謂二重の生活に苦しみながら數ヶ年の學校生活を送らなければならぬ。だから危險思想を懷いた人は師範學校や幼年學校を出た人に多い。これは餘程考へなければならぬ所である。

思想の動搖とか危險思想とか云つて騒いで居るが。一番注意を要するのは師範學校の生徒である。小學校の教師である。随分恐ろしい過激思想を懷いて居る者がある。是は全く斯うした教育が産み出した産物である。幼年學校などでも其の通りださうだ。中少尉が一番危險だと聞いて居る。當然だ。當り前の事だ。

實際のところ、平凡な人ならば思ふ通りの鑄型にも符められようが、少々働きのある人はそんな譯に行かない。内心には不平ばかり懷いて、兎や角

外面を糊塗してやつと卒業する。卒業すると其の不平が一時に外に發露する。

呪ふべき我等の古巢への公開狀

師範教育者足下。

母の温き懐を出て、其母を呪ふ者は狂者か然らすんば恐るべき異端者のみ。

余は足下の懐に出て、今呪ひの公開狀に筆を染めんとす、余は狂者か？恐るべき異端者か？希くは足下よ余の肺臓を迸り出づる涙の聲を聞け、教育の美名に隠れて大正の聖代に神聖なるべき道場に公然と罪惡を犯すの府あり。而も國家の糧を食む有象無象の之を守るあり。足下之を何物となす、秀才、穎才を網羅して、而も尊かる可き青春の血を吸ふ惜む可き吸血鬼あり。足下之を何物となす。當らすとなすか、足下即ち之也。余が筆の神の怒に觸れて折れ朽ちざる以上は足下幸に一顧再省の要あり。

足下は足下の與へられたる職能を知悉しつゝありや。足下或は言はん。師範學校は純良なる初等國民教育者を養成する所にして、余等之を知れりと、然らば敢へて問はん。國民とは何ぞや。教育者とは何ぞや。養成とは如何なる意

味なるかを。足下の答は曰く「純良なる國民は去勢するにあり、國民教育の任は卑屈因循にして、姑息阿諛の徒を養成するにあり。故に余は余の門を叩く者を化するに、之を以て要諦となす」と。若しこれにあらずんば、足下は自己を欺くの徒なり。

思ふに足下の門に來る可憐なる青年は、その純なる胸に、熱烈なる愛國の至情を抱き、教育の野にいそしまんとするの熱望を有し、渴したる小鳥の如く足下に救ひの靈水を求めんとして來れる者なり。惘然ならずや足下。可憐ならずや足下。

然るに足下は、漸く芽生せる柔かき彼等の産毛を引ぬき、加ふるに恐るべき鐵鎖もてその足を縛し、燃ゆる胸の炎に、酷き冷水をもて報い、冷酷なる白眼を以て看守を初めしにあらずや。「言ふ勿れ、讀む勿れ、問ふ勿れ、言汝に黒きパンと、味抜けるバターとを與ふるに在らずや」とは慈母に變るべき足下の彼等に對する聲なりき。斯くして足下は、時代思想より彼等を隔て、問答の道場を閉ぢ、日に青春の芽を摘むに急げるにあらずや。「叩くな、開くな、見るな、動くな、かくして色と香と光とを遠ざけ、營養不良の若朽の亡者。去勢の半病人をつくるにいそしめるにあらずや。

足下此句を理解せずば二三の例證を與へん。

かつて足下の道場にて時代思潮を紹介する一生ありき。足下は危険思想の名のもとに彼を懲罰に附せしにあらすや。「教育者の自覺」の論題を「教育者の修養」と改題を強ひしに非すや。眞に生徒を解し、深き同情と理解を有せし教師を免黜せしに非すや。生徒の有せる文藝書、哲學書を歿收せしに非すや。歩行の姿勢を指導し伏目なれと教へしにあらすや。卒業後は、有志其他に笑顔と敬禮とを缺く勿れと、教へしに非すや。要領といふ事を授けしに非すや。偽善を求めしにあらすや。余は今に記憶す、足下等が職員會にて、慎重評議の結果、讀みて可なる雑誌と書籍の指示せるの噴飯事を。

而して足下は、以上の例證の根底に於て彼等の人格を評價せしに非すや。其の結果は如何希くは次を讀め。足下が評價して優良兒となしたる一生徒は卒業の前日全級のクラスメートに永久の絶交を宣告せられ、鐵拳の制裁のもとに校庭を血塗りしことあり。同じく優良兒が更夜、足下の所謂劣等兒の寢息を伺ひて恐るべき犯罪を犯したることあり。

足下の前に偽善の假面を冠り、足下の命惟れ従ふ態の標範生が、そが友より蛇蝎の如く忌まれて、「憎むべき偽善者」の名を添うしつゝあり。

余は敢て言はん、足下の一舉一動は、惟れ國民教育者養成に、最善の努力をつくるにあらすして、最悪の罪惡をなしつゝあるものなることを。知らずや足下

月清き校庭の叢に伏して足下の門に來りし事を悔い、よゝと泣けるあはれの青年あるを。思はずや足下。放校せられたるために、自ら發砲して自己を傷づける血迷ひし生徒あるを。或者は虚偽の申立により、汝のもとを去らんとせり。或者は暗き寮舎に自己を啣ちつゝあり。

之れ師範教育の徹底か？之れ至上なる教育か！！

叩け、然らば開かるべき門に毒針を植えて、貧しき書籍に、貧弱なる思想に最大の幸福を感じしめ、唯一の指針と満足せしめんとせしは足下の教授なりき。生ける者の血を抜き、木偶に化し、偽善を教へ、暗き夜の歩行を指導せしは足下の訓練なりき。教師の一顧一眄に喜悲の浮沈を考へしめたるが人格養成の最後の到達點なりき。斯くして野に放たれたる彼等の行衛や如何？斯くして神聖なる教鞭を握りし彼等の前途や如何？

或者は女生徒を姦し、或者は女教員と通じ、或者は紅燈のもと緑酒に酔を買ひ或者は兒童に排斥せられ、或者は詐偽をなし、甚だしき車夫馬丁も之をなさざる白晝の格闘を演じ、心ある者をして教育の末世を叫ばしむるに至り、教員をして狂員の新熟語を新聞紙に作らしめ、與謝野昌子の輩をして墮落破戒の坊主と共に嘲笑の的たらしむ。而て其教員室は虚偽と反目と嫉妬の渦亂をなし兒童に對しては偽善を衒ひ、自己をすら開放し得ず、或者は足下に教へられし要領によ

り、有志の門を秘かに訪れて捧ぐるに菓子箱をもつてし、或者は心なきに笑ひ悲しみ驚き、或者は同僚を賣り深夜視學の門を叩きて耳端に冤の囁す。これ蓋し足下の教訓を夜々として怠らす實行する所以の道にして、足下に忠なるの輩也。小學教師の殞常識、無自覺、墮落、無力は今や社會周知の事實にして、知らざるは足下のみか、或は足下之を知れりと雖も耳を覆ひつゝあるか也。

足下は足下の面貌を聖者の如く裝ふ余は足下の一部を透視して之を展かん少くとも足下の行動は足下等の人格の發露と見るを得ん。足下の教員室は暗れたる日ありや。否、五月雨の陰鬱さを兒童に想像せしめんとせば、足下の教員室を直觀せしむるに如かず足下等は校の統一者を中心として常に反目嫉視を續け居るに非ずや。足下等が教壇上より他教師を疑ひ且つ怒り、罵り合ふこと常ならずや。一も統一なく整齊なきは虛無黨の輩をして悦ばしむる所也。或者は權謀術數を廻らすを務とし、或者は生徒の御機嫌取りを専務とし眞に自己を信じて、正々堂々の歩行をなすもの蓋し其數曉天の星の如く所信なく定見なく主義なく信念なきは浮草の如く、而て俗事に煩悶し尊き考慮を費す之也。之也。足下が教ふる鞭の出所は。言ふも口惜しきことなれども、余に卒業證書を與へたる正々位勳等の師範學校長は、卒業生のさる婦人と通じ、團樂の家庭を破壊し、妻をして血涙をしぼらしめ、自は破廉恥の罪を新聞記者の手によりて公

開せしにあらすや。涙なきに非ずの句は再び余等の唇を突けり。二千の卒業生をして、地に伏して動哭せしめたり。足下よ、足下は余を以て狂せりとなすか、余を以て異端者となすか。

殊に近來學校騒動の文字は、中學を去りて足下の頭上にサイクロンの目を置きしにあらすや。愛すべき母校の集へに參集するも、如何に影少き足下を愛し訪ぬる者の如何に少數なる。かくして足下は、足下を誇らんとするか。

師範教育者足下。滔々たる黄金萬能の潮流が、初等教育者に如何なる影響を與へしや。如何なる現象をそが精神内部に惹起せしめしや。古はいふ。天職は尊し教師は教授を切賣するものに非ずと。或はいふ師の影は七尺さりて踏まずと余はいふ。教職殊に小學教員の職は愚人か魯鈍者流の片手間の仕事也と。之果して社會の罪か、教育者自身の罪か、或は前者に其一部を歸する事を得べし。されど其大部は後者に歸せざるべからず。初等教育者の人格の低下學力の不足は仰いで自らに睡するが如く、世も人も之を遇するに、優待の意を當然起さしめざるに至る。足下等の悲しき人格の反映に人となりし彼等茲に於て叫んで曰く、「教育は國家隆強の第一策也、國民教育者は救世の使徒也、教權を尊重せよ教育者を優遇せよ、我等を餓えしむる勿れ」と。嗚呼、悲しき聲よ、哀むべき聲よ、自己の食はんがためのパンを、同情の押賣中に求めんとは、恐るべき聲よ、

呪ふべき聲よ、亡國の調と何處か異なる。斯くして哀願と誇張によりて、困惑し迷倒して偽廢兵の押賣よりも淺間しき人格を、或は新聞に、或は雜誌に、或は神聖なるべき校舍に、至る所表現し、世の反感と嘲笑とに、いよ／＼ドン底に落行く。彼等は足下の教を謹んで遵守したる者也。昔ギリシヤの古諺に「汝の子供を奴隸に任せよ、然らば汝二人の奴隸を得與ふ」と。今や世人いはん。「汝の兒童を小學校に入れよ、然らば更に國家は低劣なる人格者を一人増し得ん」と。

近時の小學教育界に一新現象として現れたるものは何、曰く、「小學兒童の同盟休校」、又曰く、「小學兒童の教師排斥運動」、曰く、「懲罰と刑事々件」、無邪氣にして可憐なる彼等にも教師の品位は識別し得る也。教鞭の輕重は判ぜらるゝ也。相當理解ある父兄にも目に餘る事共の多き也。宜也。小學教員の今日の社會位置の低き事や。今年三月各府縣にて師範生徒を募集するや、何れも其人員に満たすために足下等血眼に勧誘したりとなん。足下此の事實を社會の潮流に起因せしと思ひしならん。さばれ「己」に出でしものは、己に歸らざるべからず、足下自らを鞭達せよ頃日より國民新聞に連載しつつある小學教育者の悲境の報導を、足下如何に見るや。彼等を救ふ者は足下也。社會の最下層に沈淪する彼等を救ふ者は蓋し足下なり。人を救ふ者は先づ自己を救濟せざるべからず。温き母の胸を戀ふ余は、此に切言して足下の反省を乞はんとするもの

也。長くも 聖上陛下には、邦家教育事業に御診念あらせられ、時に教書を賜ひ、御内帑金を下げられ、當局者並に議會又初等教育者を思ふに吝ならず。

更に目を宇大に馳せんか。戦雲一度おさまりしと雖、國勢の充實、國民の向上は、各國の孜孜として競ふ所也。實に一國の隆替衰亡の分岐點は國民其自身の本質に在り、國民の善良と否とは、教育の實蹟の擧がると然らざるとによりて定り、しかも普通教育は之に與りて力あり。

唯々足下の猛省を望み、目覺めたる師範教育、「生ける師範教育」に盡粹せられんことを祈るのみ。

これは或る師範學校を出た若い教師の手に成つた所謂公開狀であるが師範教育の弊害を遺憾なく暴露して居る。今日の師範學校には斯んな不平を懷いて居る人物が澤山有る。斯んな不平は危險性を帯び易い。恐るべきことだ。

(二)

師範學校は教師を養成する處ださうだ。私は此處に大なる疑問がある。

一體教師を養成すると云ふことが出来るか何うか。成程知識を授與するための技術者を養ふといふことだけならば出来るかも知れぬ。併し人を教化し訓育するといふ人格者を養ふといふ事が出来るか何うか。

私は教師の性格といふものは生れながらにして備はつて居るもので、後天的に拵へられるものではないと信じて居る。教師として人を教化し訓育するだけの人格者は、ちやんと其れだけのものを生れながらにして備へて居る。是れは何うすることも出来ないものである。

人は生れながらにして、商人は商人たるべく農夫は農夫たるべく出来て居る。商人たるべき人が商人となり農夫たるべき人が農夫となる、其處に大きな意味が有るのである。農夫たるべく生れた人が官吏となり、商人たるべく生れた人が教師となるそれは大いなる間違である。

現在の社會には確かにそんな矛盾がある。藤樹は生れながらにして藤樹である。松蔭は生れながらにして松蔭である。藤樹と松蔭は何うして

も教育者たるべく生れついて居るのである。藤樹は藤樹にして初めて藤樹たるべく、松蔭は松蔭にして初めて松蔭たり得るのである。藤樹たらざる者を藤樹とし松蔭たらざる者を松蔭としようとしてもそれは無理である。將來の社會は何うしても斯うならなければならぬ。商人たるべき者が商人となり、教員たるべき者が教員となる。斯うして適處に適材を得ることになるのである。

私共の世の中は、ちやんと然う出来て居るのである。それが不自然に行つて居るから色々な障礙が起るのである。坊主が商賣人になつたり、醫者が政治家になつたり、教員が會社員になつたりするのは皆斯んな不自然が産んだ産物である。

教員たるべく生れた人は皆教員となるが宜い。醫者たるべく生れた人は皆醫者になるが宜い。人間の本性はそれを要求して居るのである。斯うして社會は合理的に出来上るものである。

一體職業といふものは其の人の道樂と一致しなければならぬ。職業が道樂と一致し、趣味と性格とが職業と一致すると不平不満の起る筈が無い。其の人の全力が其の方面に傾倒せられ偉大な力を發揮するものである。私は斯う云ふ意味からして現在の師範學校を改造して見たい。

(三)

師範學校は師範學校であらせたい。教師になることを好まない者は入れてはならぬ。教師とはどんなものか、どんな事をするものかを知らない者は入れてはならぬ。自分が教師となつて可いか悪いかと云ふことを判断し得ない者は入れてはならぬ。師範學校は教師たるべき運命を有つて居る人の入るべき處である。さう云ふ性格の人の這入つて學ぶべき處である。師範學校は然うならなければならぬ。

現在の師範學校には徴兵通れのために厭々ながら這入つて居る者が多

い。學問はしたいが金が無い。厭だがマア、師範學校にでも這入つて居たら何うかなるだらう位の考で這入つて居る者も尠くない。子供は厭がるが長男だから餘所にも出せないから師範學校に入れて置かうと無理やりに入れた者も尠くあるまい。斯んな事ではいけない。

師範學校に入る人は教師たるべき使命を自覺した人でなければならぬ。さう云ふ人が這入つて精神的に修學する尊い靈場でなければならぬ。斯うして初めて師範學校が意味を有つのである。

師範學校は普通の學校ではない。教師たるべき人を教育する専門の學校である。随つて其處に入學する者は既に一定の教育を受けて一人前の人間となつて居る者でなければならぬ。まだ自分さへ十分に理解し得ない人の學ぶべき處ではない。一通りの教育を受けて一人前の人間となつて居る人が更に自己の使命を果すべく教師としての特別の修養を重ねる處でなければならぬ。

將來の教師は何うしても斯様な特別の教育を受けた人でなければならぬ。時代は進んでゐる。社會は進歩してゐる。此の時代と此の社會に適應すべき教育はもう少し深い修養がなければならぬ。

私は斯様な考へから現在の府縣立師範學校を改造して之を現在の高等師範學校に相當する位の程度に引上げたい。そして前に述べたやうな特殊の人を收容して教育する機關としたい。

斯んな意見を出したら屹度空論と笑はれるかも知れぬ。出来ない事と誘られんかも知れぬ。笑はれても誘られても然うならなければならぬと信じて居る。現に或る師範學校の校長さんに斯んな意見を述べて見たら、意見には賛成であるが、現在の制度でさへ教員が不足して居る。其を今君の意見の様に師範學校を廢したら大變であると言はれた。成程教員は缺乏して居るかも知れぬ。併し師範學校が有つたとて現在のやうな卒業生を出して何になる。却て無い方が宜いではないか。實際のところ今日位

の教師なら、師範學校がなくつても中學校出や女學校出の人で澤山である。いや其の方がどれ位増かも知れぬ。教員が無いから師範學校を置く、入學生が少なければ傭兵制度のやうに、斯んな恩典を與へるとか、幾ら給費をするとか、さうして釣出して、それでやつと間に合はせようとする方が餘程おかしいではないか。是れではないけない。教師といふ尊い職務はどうしても是ではないけない。是非今少し意味有るものに改造しなければならぬ。

教育會の改造

何々會とか何々大會とか、今日ほど會合の多い時代はない。之を進歩と見れば誠に結構であるが、扱て其内容に至つては、ブアなものだ。特に力の無いものは我が教育會である。全國十幾萬の教員から成立つた帝國教育會が何をして居る。時々お役目的に仰々しい大會を開いて、何々を何々せ

られん事を其の筋に建議すると云ふ様な事を二つ三つ議決して、それから會員の肩書を利用して東京の市内を彼方此方見物して歩く。斯うして數日を費して目出度く閉會と云ふことになる。會員は無事に任務を盡してそれ〴〵任地に歸つて地方の會員を集めて報道する。何々を議決して、何々を建議した。さうして斯んな優待を受けて、觀られない處を觀せて貰つたと得意氣に報告する。會員は皆それで満足する。お目出度いことである。

何でも建議すれば其れが用ひられると考へて居るらしい。所が所謂其筋は嘗てそれを採上げたことが無い。偶に採上げたことが有るとすれば、それは皆其の筋の都合の好い事ばかりである。まあ考へて見給へ。師範學校の訓導を直ちに郡視學に任用したいと云ふ事を何遍議決して何遍建議したか。丁度根本氏の禁酒法案が毎年衆議院に建議案として提出されたと同じ事で、物笑ひの一つとなつて居るではないか。やれ、教員の待遇

を進めて貰ひたいやれ、恩給法を改正して貰ひたい、鐵道院と交渉して無錢で乗車させて貰ひたいと云ふやうな勝手な事を議決して、それを形式的に建議して満足して居る。建議して通らなかつたら建議しない方が宜い。建議をする以上は、其れが通らなかつたら何うするかと言ふことまで考へて置かなければならぬ。是れは何うしても建議して貫徹しなければならぬと云ふ様な重要な事であるならば十萬の教育者が結束して起たなければならぬ。さうして貫徹に努めなければならぬ。教育者の腑甲斐無き加減といつたら呆れて物が言へぬ。斯んな無力な教育會なら無くても些とも差支は無い。寧ろ無い方がよい。論より證據、今日まで帝國教育會がどんな事をしたか。どれだけ我邦の教育に影響を與へたか。

地方府縣郡市の教育會に至つては尙更甚だしい。會長や副會長などは麗々しい肩書の人を据えて居るが何さへ目立つた仕事は出来ない。僅か年に一回か二回お役目的に大會を開いて名士の講演を聴くか會員の五分

間演説位でお茶を濁してゐる。偶に評議といへば講習會の講師の人選位が關の山である。之れでは有つても何の役にも立つまい。

教育會はもう少し力を有たなければならぬ。是れだけの頭數を有してゐるではないか。吾々の主張する所を主張するだけの力を有してゐなければならぬ。大いに輿論を喚起して世を動かすだけの力を有して居なければならぬ。一體吾々教育者ぐらゐ差別的の待遇を受けてゐるものは無いではないか。立派に國民たるの義務を盡して居ながら衆議院議員の被選舉權さへ持つて居ないではないか。何と云ふ腑甲斐ないことだらう。

此の頃問題になつて居る教員の待遇問題の如き、當局の力に頼らないで輿論の力で社會を動かすの覺悟がなければならぬ筈である。斯んな事を言ふと亦過激だとか危険だとか、非難されるかも知れぬが、本當に要求すべきものであつたら何も遠慮することは無いではないか。教員だから言ひたいことも言はないで辛抱して居なければならぬと云ふ理由は無いでは

ないか。要求すべき事はどい、要求するがよい、主張すべき事は大いに主張するがよい。何も遠慮して、蔭で愚圖々々こぼして居るやうな意氣地のないことで何うする。

今日の教師は輿論の力の大きいことを知らない。さうして其れが教育會其のものゝ力であることを知らない。會といへば校長や視學などの頭株の人が喋るのを黙つて謹聽する事と考へて居る。職員會とか、訓導會とか、名は立派であるが、實際のところは校長や首席などの頭株の人の話を聴くだけである。何處が職員會か、何處が訓導會か。皆それの意見を述べる機會は與へられて居ないではないか。

私の知つてゐる或る地方の學校に精神のわるい教師がある。それが屢、匿名で校長や視學や其の他同僚などの悪口を新聞に投書するさうだ。確かにあの男であると云ふことは知れ切つて居るが如何ともすることが出来ない。みんな其の男をいやな男、とるに足らない男だ、危険分子であると

爪弾きしながら、それを何うすることも出来ないで居る。尙又私の知つて居る或る學校の或る教師は、酒色に身を持崩して教育者としての體面を傷けることが夥しい。それを皆の教員が擯斥しながら何うすることも出来ないで居る。之れは私の知つて居る事實であるが、斯う云ふやうな事實は他にも尠くないであらう。しかも今日では是等の不良分子に對する制裁は一に當局に打ち任せて居るやうな姿である。學校や社會はそれに手を付けることが出来ないでゐる。これは抑、の間違である。是れこそ教育會が働かなければならぬところで、輿論の力で制裁して、教育會に伍することが出来ない様にしてしまはなければならぬ。教育會にグツと睨まれたら、もう何うすることも出来ない様にならなければならぬ。教育會はそれ位の制裁力を有つて居なければならぬ、教育會は是れ位の權威を有つて居なければならぬ。

要するに教育會は大に輿論を喚起して世を動かし、要求すべきは要求し、

主張すべきは主張するだけの力を有つて居なければならぬ。それと共に吾々相互の間には互に督勵し互に制裁し、不良分子の如きは會其のものゝ力に依つてどいゝ、淘汰するだけの制裁力を有しなければならぬ。是れ位の權威を有ち是れ位の力を有つて初めて教育會其のものゝ意味が有るのである。

第五部

熱も力も無い修身教授
生命のない理科教授
深みのない歴史教授
虚偽の多い地理教授
不徹底な國語教授
五里霧中にある綴方教授
目先の利かない算術教授
社會化しない體操教授
等閑に附せられた鑑賞教授
迂遠極まる家事教授

熱も力も無い修身教授

修身は教科の中で一番好かれなければならぬ教科であるのに一番嫌はれてゐる。これは誠に遺憾に堪へない。修身教授が斯様に嫌はれてゐるのは、教師の説く所が血も力も無い空虚なもので、児童の本當の心に接觸してゐない、突詰めた所がないと云ふことに起因してゐる。本當に児童の腸に浸みわたる所がない、ハツと思ふ所がない。これでは何の興味も起らないのは尤ものことである。

今日の教授は餘りに児童と懸離れて居る、餘りに時代と懸離れて居る。おまけに説く所が平凡で利目がないと來てゐるから適はない。

狂人といふ小説の中に

一雄。それでは父さん、承りませうか。

謹一。何をさ。

一雄。今の世の人間はね、それでは、凡て社會の幸福、人類の進歩といふものを、常に一生涯の大目的として働いて居るのでせうか。牛肉屋が牛肉の商賣をしてゐるのも、あれは社會の幸福の爲にして居るのでせうか、うまい牛肉を供給するのは社會の爲だと思つて居るのでせうか、菓子屋が菓子を作るのも、社會の人に、甘い、菓子をお馳走してやらうと思つてやつてゐるのでせうか。どうかして社會の爲になるやうに、一圓でも給料が上つて、立派な慈善が出来ると思つて、官吏や會社員などといふものは、自分の上に立つ人に對して、腹の底から頭をベコ〜と下げて居るのでせうか。公道の眞中を往つたり來たりして、毎日人を糺ひたり怪我をさせたりして、そして、たつた一圓だとか、二圓だとかの謝禮金をつきつけて、首尾能く無事にそれがすんでしまふと、向ふへ向いてペロリと舌を出すやうな事務員を大勢つかつてゐる電車會社が、動もすれば市民の反對の聲も、何もかも無視してしまふて、賃錢値上をしゃうとしたりするのは、上にたつ連中のお腹を肥やしてやつて、それで社會の爲に盡させようとするのでせうか。下の方に居て年が年中叱られ通して、血まなこになつて働いて居るものに對しては、年末賞與が甚だ少うて、朝は遅く出て、夕方には早く歸て、

熱も力も無い修身教授